

みんなでしゃべった！ 学んだ！ つながった！！

しゃべり場★公民館 10年間の記録

(平成24年度～令和3年度)



貝塚市立公民館
しゃべり場★公民館

しゃべり場カフェ

ロビーで開催。お茶などを飲みながら気軽に話をする場。クラブ帰りや活動帰りの利用者



映画を見て公民館の歴史を知ろう

1970年代に現在の文部科学省が作成した30分程度の記録映画の中に貝塚公民館がありました。当時は公会堂という名前で親しまれ、映画を見ていた人の中には「あ・・・これ、私」という人も。貝塚公民館の歴史を語り合いました。



出張しゃべり場

子育て中のお母さんたちとしゃべり場。子どもたちが退屈しないように保育室で行いました。

クラブとのしゃべり場では、活動している部屋に訪問し、活動も見せてもらいながらいろいろな話ができました。



～しゃべり場★公民館 10 年間の記録～ 発行に寄せて

2012 年に 3 公民館の利用者・職員により立ち上げられた「しゃべり場★公民館」は、利用者と職員が共に公民館のあるべき姿を考え、活動を作っていくという、いわゆる「協働」の場として 10 年間活動を続けてこられました。

この間、公民館クラブの訪問や「しゃべり場カフェ」など様々な活動を通じて、公民館での学びがより豊かなものとなるためにはどうすべきなのか対話をしていく中で、公民館職員も多くの気づきを得て成長することができました。

さらには、2014 年に開催された第 2 回貝塚公民館大会から積極的に大会の運営に関わっていただき、中心的な役割を担っていただきました。この 10 年間の活動に対し感謝申し上げます。

これからの公民館を考える時、より多くの市民が気軽に参加できる学びの場となることが求められると考えています。そのためにもまずは、「しゃべり場★公民館」がこれからも公民館を利用する市民が気軽に集い、おしゃべりできる場として活動が続いてほしいと願っています。

最後に、「しゃべり場★公民館」の活動がより有意義なものとなることを祈念いたします。

貝塚市立中央公民館 館長 甲斐 裕二

～しゃべり場★公民館 10 年間の記録～発行に寄せて

「市民の見えないところで有料化の話が進められている。このままでは公民館はだめになる。利用者はもっと公民館を知り、活動の意味を考えないと！」2012 年、一人の公民館利用者の危機感からしゃべり場は生まれた。それは従来の学習会や研修会とは違い、利用者と職員が対等の立場で議論するという前例のない取り組みであった。しかも公民館の事業として位置づけられ活動の持続性を得た。月例会ではテーマや話の進め方に始まり、具体的に何をするかを市民と行政、それぞれの立場で意見をぶつけ合った。公民館にゆかりのある人を招いて話を聞く、クラブ・サークル訪問、映画「公民館」上映、リーダー研修、施設見学、レポート発行などなど、内へ外へと様々な発信と働きかけをした。そして 2022 年、10 年の活動をまとめた冊子を作ることになった。ならば単なる記録じゃなく、次の 10 年を支える内容とメッセージが必要だと、またしても議論の 1 年となった。翌 2023 年にようやく発行の運びとなった。ここまで来れた原動力はただただ「この公民館を守りたい」という熱意の共有と本音の話し合いから生まれたものだと思う。

「もう 10 年？」「いや、まだ 10 年！」しゃべり場メンバーの思いは様々でも、この冊子に詰め込まれた言葉たちは、10 年の歩みと重みを背負って静かに語りかけてくる。

しゃべり場は今、これからの姿を、選ぶべき道を探している。これまで一緒に歩いてきた仲間たち。そしてこれから一緒に歩く仲間たち。だれもがこの冊子に耳を傾け、自分の思いを確かめ、自分の言葉を見つけ、ともに進んで行けたらいいね。

しゃべり場★公民館メンバー 馬場 則彦

目 次

◆ しやべり場★公民館 10 周年記念講座 P1

1. 「しやべり場★公民館」はじめて 10 年で貝塚公民館はどうなった？
～次世代に伝える、つなげるために～
講師：堀内 秀雄氏
2. 「しやべり場★公民館」あらためて「公民館」を学ぼう
～ほんとにすごい貝塚公民館～
講師：萩原 雅也氏
3. 公民館でできること
～講座・クラブ・ボランティア～
発表者：南 百合美（山手地区公民館職員）
大野 幸子（中央公民館職員）
4. しやべり場カフェ
～気軽に集まって話ませんか。温かい飲み物を用意しています～
「公民館のイイトコ探し」

◆ しやべり場★公民館

2012 年度～2021 年度 振り返り P9

◆ 資料 P36

しやべり場★公民館 ホームページ



https://www.city.kaizuka.lg.jp/kanko_bunka_sports/kominkan/shaberiba27.html

しゃべり場★公民館 10 周年記念講座 第 1 弾
「しゃべり場★公民館」はじめて 10 年で貝塚公民館はどうなった？
～次世代に伝える、つなげるために～
講師：堀内 秀雄氏（和歌山大学名誉教授）

日 時：令和 4 年 7 月 7 日（木）13：00～16：00

場 所：貝塚市立中央公民館・視聴覚室

参加者：70 人

内 容：動画①「しゃべり場★公民館」
グループワーク①「自己紹介」
動画②「公民館利用者インタビュー」
グループワーク②「次世代につなげる伝えるためにこれから私たちができること」
堀内氏講義

＜まとめ＞

講師との打合せ時「文字だけでなく、動画もあればよいのに。」という助言に、「作りましょう！」と即行動に移せるメンバー。出来上がった動画は、「しゃべり場★公民館」（以下、しゃべり場）ができたきっかけやメンバーの想いが伝わる「熱い動画」となった。

動画②は「利用者インタビュー」。快く受けてくれるクラブ員や公民館利用者。それぞれの立場でしてきたこと、思うこと、これからしようとしていることを自分の言葉で伝える姿は、映像を通してこの講座に参加している人の心にずっと伝わったようだ。

グループワークでは「自分たちが楽しく、居場所として利用している公民館。次世代のためにできることは？」との問いかけに、自分たちの今を振り返り、ちょっと先の未来を想像し、活発な意見交換ができた。

講師からはこの 10 年間で大阪の公民館が縮小を続けるなか、貝塚公民館が踏ん張っていることを褒めてもらう一方で、これからの 10 年を見据えていかないと公民館は地域のたまり場・居場所ではいられなくなる。名前すらなくなってしまうかもしれないという危機についても話を聞いた。

「社会教育とは？公民館の目的とは？」とよく聞かれるが、答えはふたつあり「誰もが住みよい地域を創る」とことと、「それを生み出す住人たちの意識・学びをつないでいく」とこと。

いいかえれば、「地域を豊かにして人を育てること」だとも言われた。

この講座のための事前学習会（しゃべり場メンバーと職員）を堀内先生を迎え開催したが、「講座のグループワーク発表で聞いた話と、事前学習会でメンバーが話した内容に差がないことに感動した。それは、メンバーと利用者の思いが同じだということの裏付けで、とても素晴らしいことだ。」と言ってもらった。

講座終盤に講師から「次の 20 年にも呼んでほしい。『しゃべり場★公民館』はこの 10 年のまとめをして、次の 10 年に向けての提言、優しく言えばスローガンのようなものを作り、進んで行ってほしい。」との提案をもらった。

メンバーにとって、この提案は難しいことだと感じたが、それに立ち向かっていこうと話し合いを続け、冊子作りに取り掛かっている。

下記のアンケートからは、参加者の感じたこと、気づいたことが読み取れる。無記入もあったが、全体的に書き込まれたアンケートが多く見られた。

＜アンケートより、抜粋＞

★動画を見て

- ・知り合いがおしゃべりしていたので身近に感じた。
- ・しゃべり場で活動している人の想いが伝わった。・動画すべてで熱意を感じられた。
- ・いろんな気づきがありました。・映像で見る事で理解しやすい。・いろんなことがわかった。

★グループワークをして

・想像していたより楽しかったです。・話下手な私でしたが、グループで数人の話を聞いて心が豊かになった気がしました。・いろんな意見が良かった。自分を知ることができた。・グループで話すことで公民館を身近に感じる事ができた。・知らない方々と一緒に、同じことを感じていることに感動しました。・人と人の繋がりができ、他人のことを考えることができた。公民館は何でも学べる所と感じた。・公民館を利用している人がこんなにたくさんいることがわかって嬉しかった。・公民館に対する必要性、繋がり等公民館への思いがひしひしと伝わってきた。有意義なグループワークでした。さらに広がり、繋がっていくよう自分のクラブ員の人達に伝えていきたい。

★堀内先生の講座を聞いて

・ためになり楽しく聞けた。・公民館利用者の数を増やすことより、利用している人がイキイキしていることが大切。・うんちくの深い話でした。いろいろなヒントがありました。・再認識しました。・すべて良かった。堀内先生のお話が最後にあるからこそ、貝塚公民館の良さを改めて知ることが出来た。・「内に豊かに＝自分が豊かになる。」まさに、自分と同意見です。・公民館や地域、所属している団体にとってヒントになることが沢山つまっていた。今後に生かしたい。

★ご自由にお書きください。

・日頃クラブ活動しているだけでは触れ合えない方々の言葉や思いを聞くことが出来ました。意味のある時間でした。

・みなさん熱い想いを持たれていて、公民館は素敵な場所だなと感じました。
・しゃべり場もみんなも楽しく、未来を明るく！生きがいは公民館にあります。再認識しました。
・全体として力のこもった討議になったような雰囲気だった。
・しゃべり場のメンバーのおかげで改めて自分たちの活動を振り返るいい機会になりました。これからも自分事として公民館のことを考えていこうと思います。しゃべり場さんありがとうございました。
・このような講座は初参加であったが、運営の方、参加された方たちの公民館に対する必要性、思いは理解できた。今後クラブの人達とつながりをさらに深め、来館者と接する機会があれば積極的に話しかけるなど、いろいろな人とつながり、公民館の良さ、必要性を話し合っていきたい。
・公民館を利用している人の多さ、活動の熱心さに驚きました。何歳になっても「学びたい、交流したい。」と思える心のある方たちの集まりだと思います。私自身、このような講座に参加したことはありませんでした。学ぶことの重要性、公民館の存在意義、地域社会のつながり、しゃべり場が10年続いていること、そこに沢山の人が参加していることが本当にすごいなと思います。（記：奥埜）



しゃべり場★公民館 10 周年記念講座 第 2 弾
「しゃべり場★公民館」あらためて「公民館」を学ぼう
～ほんとにすごい貝塚公民館～

講師：萩原 雅也氏（大阪樟蔭女子大学教授・貝塚公民館運営審議会委員長）

日時：令和 4 年 10 月 25 日（火）14：00～16：00

場所：貝塚中央公民館・視聴覚室

定員：40 人

内容：ふだん身近にあって、いろいろな活動で利用している「公民館」

「公民館って？」どんな言葉でつたえあえたらいいでしょうか。

ある人は『「自分たちで行動する」ことを教えてくれる場所』といい、またある人は
「公設公営の館（やかた）」「活動場所」といいます。

「公民館」をやさしく学んで、みなさんの「公民館」をみつけましょう。

中止となりました。

「しゃべり場★公民館」
10 周年企画 第 2 弾！

公民館の存続は「利用者の力」（仮）
～これからの 10 年、社会と公民館～

日時 令和 4 年 10 月 25 日（火）
14 時～16 時

講師 萩原雅也先生（大阪樟蔭女子大学教授）

場所 中央公民館 視聴覚室

申込 10/20 まで中央公民館（072-433-7222）

公民館大会実行委員は交流
と勉強を兼ねて参加しよう

手配り用チラシ

しゃべり場★公民館 10 周年記念講座 第 3 弾 in 浜手

公民館でできること～講座・クラブ・ボランティア～

発表者：南 百合美（山手地区公民館職員）・大野 幸子（中央公民館職員）

日 時：令和 4 年 11 月 22 日（火）13：30～15：30

場 所：貝塚市立浜手地区公民館・ホール

参加者：54 人

内 容：発表者の話（コロナ下での公民館活動、公民館の意義など、これまでの経験を交えて）
グループワーク（1. 自己紹介 2. 発表者の話の感想 3. 自身のつながったエピソード）
グループの発表

<まとめ>

浜手では、公民館を利用して数年という人が利用者連絡会の役員を担うことが多くなり、そんな方に公民館の役割や意義について学んでもらう機会とするため、公民館職員が自身の経験を元に公民館について伝える講座とした。

浜手の利用者を中心に、公民館利用の浅い人から深い人までが集まり発表を聞き、その後にグループワークで感想や意見、思いを話し、自分達の公民館活動に対する理解を深めた。

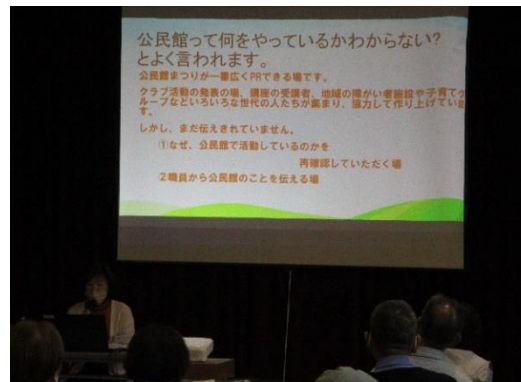
公民館講座受講者、クラブ員、地域活動やボランティア活動での利用者など、さまざまな立場の人が集まり話すことで、お互いにいろいろな活動を知り交流を深めることができた。

最後のグループ発表では積極的に手が上がり、交流の大切さ、公民館活動存続の大切さについてもみんなで確認し、思いが共有された。

<グループワーク>（抜粋）

- ・公民館活動が縮小していることが残念。自己実現がかなう。高齢化が進み、部屋や駐車場が有料になると困る。高齢者を大事に。ここに来る手段がなくなっている。
- ・公民館を利用するようになってご近所の人たちとも出会えて、地域で活躍している人は公民館でも元気だ。地域に埋もれている人、沢山いるかも。
- ・職員がずっと公民館の仕事を大事に続けていることが大切だ。
- ・自分で見つけられた人はいいいけれど、まだまだ公民館を知らない人たち。悩み、不満、不安を話せる場として、聴く耳を持つ、人の話を受け入れる、また話せる・聴いてくれる場がある、それが公民館。安心につながる、先が見える。
- ・人生が変わった→人とのつながり、楽しい場所だけではなくしんどい事の話し合いが出来るのも公民館の良いところ。話し合い→子育て中の活動、子供会の役（会長）。公民館の活動と違って地域の活動は難しいところが多いということを経験した。公民館の活動経験が大きく人生に影響がありました。
- ・職員さんからの声掛けがあって、講座への参加をさせて頂くことに喜びがある。役員さんのおかげで活動できる。
- ・何かやりたいなと思ったとき気楽に行ける場所。友達ができて公設公営。いつまで続けるかわからないけどみんなで考えて、安く、気軽に集まれる場所をみんなで守っていきたい。
- ・活動はしていないが福祉委員の活動で公民館を利用させてもらっている。お弁当を作って配ったりする。若い人が少ないのが悩み。今日来て講座を聞き、公民館ではたくさんの人がいろいろな思いをもって活動していることを知った。委員活動がひと段落来る日があればまた興味を持って覗いてみたい。

- ・皆さんお元気に公民館に集い、仲間づくり・学び・人生を楽しむ場所としてだけでなく、繋がりや生きがい、発表を通じての達成感など公民館活動を通じていろいろな経験をされている。活動が続ける中で、役員がまわってきたり面倒に思うこともあるけど、それも全てひっくるめて繋がりが生まれる場所。家では経験できないことができて幸せ、人生が豊かになった。
- ・結婚してからの公民館、来てみると 20 代～90 代までクラブが活発で賑やか。中学校のクラスみたいに楽しい。講師もいろいろ意識的でメダカの学校だなあと感じる。もっと横と横のつながりがあれば公民館の幅を広げることにつながるのではないかな。同じ貝塚に住んでいて今まで知らなかったという人がいると思う。公民館の外への宣伝次第で、若い世代でも働き方改革でクラブへ入部したり親子で入部したりする人が増えるのではないかな。



○10 周年記念講座 in 浜手に参加して

新型コロナの影響で、公民館の利用も制限された期間もあったが、多くのクラブでは、日常の情報交換にグループ LINE を活用して、部員の孤立を防ぐ対策を取っていました。

昨今、急速に普及した SNS は、公民館活動に有効で必要なツールだと思います。

公民館のみならず、地域の多くの活動が休止に追いやられた一年でした。

そんな中でも浜手公民館は 10 月に小規模ながら公民館まつりを実施して良かったと思います。

閉塞感に疲れていた人達も、久しぶりに解放されて元気を取り戻すことが出来ました。

公民館は、来て楽しい場所、自分の居場所、学びを通じた地域住民の交流の場所など楽しいことで溢れています。利用者の 54%以上が 70 歳代であることも意外な驚きです。そして、皆さんは毎週 1 回以上公民館を利用されています。そんな中で気付いたこと。

- ・利用者は他市町から転入されてきた方が圧倒的に多い。
- ・地元で生まれ育った市民の利用が少ない(20%) って、どういうこと？

公民館には毎日の生活の場とは違った社会と人間関係がありますよ。

是非、新しい仲間が増える活動を目指したいと思いました。

(記：薮田)

しゃべり場★公民館 10 周年記念講座 第 4 弾
しゃべり場カフェ
～気軽に集まって話ませんか。温かい飲み物を用意しています～
「公民館のイトコ探し」

日 時：令和 5 年 1 月 31 日（火）13：30～15：30

場 所：山手地区公民館ホール

参加者：39 人

協 力：山手ふれあい料理ボランティア

内 容：グループワーク 1・2

- ・なんで公民館を利用してるん？公民館に来たきっかけ教えて？
- ・公民館があって救われました！

グループワーク 3

- ・公民館の P R を私たちがします！
(公民館の良さを私たちが発信するためには何をしたら良いか)

<グループ発表>（抜粋）

★グループワーク 1・2

- ・仕事をしていて、することがなく何かないかと公民館を訪れクラブに入る。今ではみんなでご飯を食べにいたり、遊びにいたり楽しい。
- ・子どもに誘われてきた。その後、いろいろなクラブに入っている。
- ・費用が安いところを探していた。今のクラブがきっかけで退職後の生きがい。
- ・子どものサークル活動がきっかけ。費用が安い公民館で入りたいと思った。
- ・地域のつながりを作るため、情報交換ができる。
- ・公民館の存在を知らなかった。習い事をしたいのと、友達をみつけたくて来た。
- ・子育て講座がきっかけ。
- ・いろんなクラブがあり、アットホームだったり、腹をわって話せるので救われた。
- ・知り合いがいなかったが、友人や知り合いが増えて近所の交流も増えた。役員がまわってくるからやめるといふ人もいて、いい方法があればと思う。
- ・退職後に自分のやりたいことを広げることができる。対等に言い合えてやり取りができる。目標にできる人がいて、いろんな刺激を受けることができる。
- ・活動することで趣味が広がった。そして何でも言える仲間ができた。長い間休んでいても戻れるところがある。待っていてくれる人たちがいる。
- ・知らない人でも挨拶してくれるのが嬉しい。

★グループワーク 3

- ・公民館まつりでクラブの P R をする（動画・ショートムービー等）
- ・口コミや個人の SNS を活用してアピールする
- ・町会や小中学校、まちの駅などで宣伝する
- ・講座全体の時間や曜日を示したパンフレットをつくる。
- ・クラブが地域活動するようになった。（町会などでクラブの発表）
- ・元気な高齢者支援。クラブの平均年齢が 65 歳以上無料化したら？

- ・公民館までの交通網の整備。市民バスをもっと増やす。
- ・町会の回覧板に公民館のチラシを付ける。
- ・「公民館に行ったら、誰かが待ってるよ。」「地域のしがらみがなくて楽しいですよ。」と声をかける。
- ・人の集まる場所（たとえばスーパーなど）で、公民館クラブの発表をする。
- ・情報が必要なところに届いていない。少人数の集まりをたくさん作り、そこに働きかける。
- ・世間のしんどい課題にとりくんだ講座を増やす。
- ・市役所前の広場、そこでクラブがゲリラライブをする。
- ・水間鉄道のヘッドマークに宣伝する。
- ・これからのねらい目は男性。退職した男性をどんどん公民館で受け入れる。
- ・クラブの持ち方の工夫。平日ダンスクラブ。働いている人たちのために「公民館まつり」が近くなると、携帯電話で動画を送る。また、夜の時間に自主練習を行う。
- ・公民館イベントに家族を引き込む。子どもがいる場合は、お父さんを一緒に連れ出す。

＜まとめ＞

会場が山手地区公民館だったこともあり、山手のクラブから参加が多く、寒い時期だったが、ホールの中は話し声で熱気さえ感じられた。

自己紹介に、自分たちの活動の紹介を加えることで話しやすい環境ができた。中には、人が少なく運営が厳しいという話に、助言や成功例を紹介したりするなど、それぞれのグループで活発な意見交換ができた。

また、ボランティアの協力で途中、コーヒータイム（コーヒー、紅茶の進呈）があり、それもホッとできる要因となった。

自分たちの当たり前が、隣のクラブではそうではない、そんな話もできた。

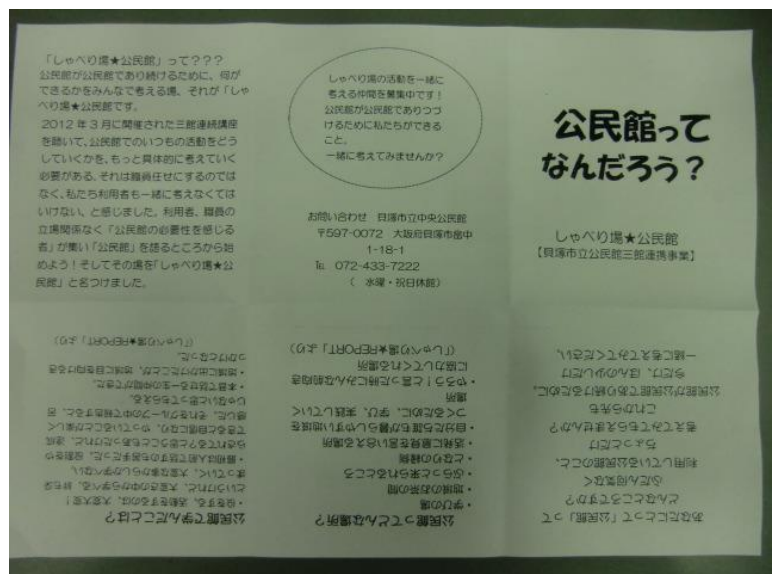
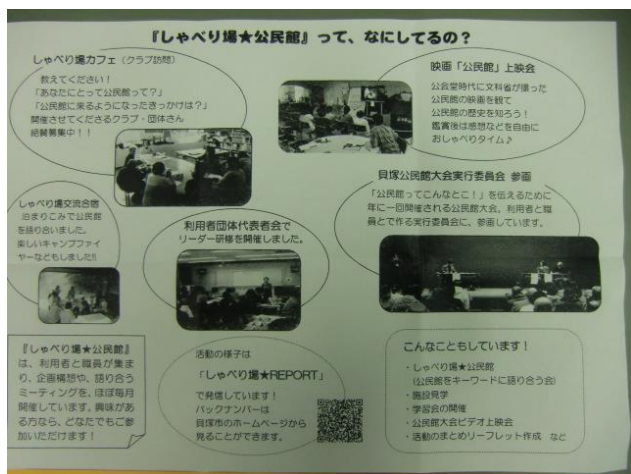
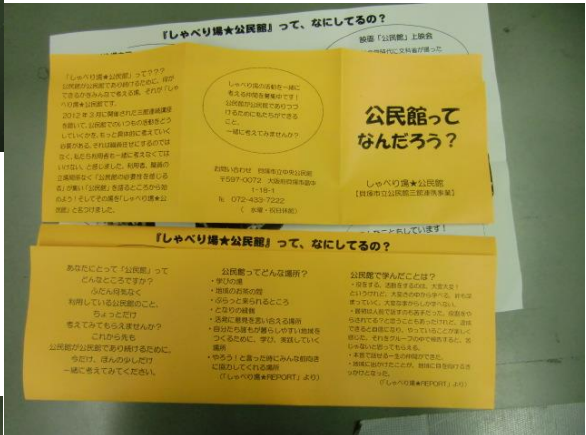
人と人とのつながりはこんなふうにできていくのだと実感できた時間でもあった。

公民館のPRについては、少し難しいテーマだったが、しゃべり場のメンバーがいつも話している「クラブの存続は、まだクラブを知らない市民をいつでも受け入れることができる居場所を維持する大事なこと」ということを伝える機会となった。

（記：要）



クラブ訪問やしゃべり場カフェをする時に「しゃべり場★公民館」の活動をわかりやすく説明するため作ったリーフレット



しゃべり場★公民館
2012 年度～2021 年度 振り返り

しゃべり場★公民館 2012 年度（平成 24 年度）振り返り

しゃべり場を始めた経緯

「しゃべり場★公民館」は 2012 年 6 月に始まった。

それ以前から今も変わらず、私は公民館のあり方について思っていることがある。それは公民館はこのままではいけないということ。公民館を利用している人にとっては公民館はなくてはならない場所。でも利用していない人にとっては？ 貝塚の人口 8 万 3 千人のうち、どれだけの人が公民館を利用している？ 利用どころか、どれだけの人が公民館の存在を知っている？大阪府内だけを見ても公民館は衰退の一途。市直営で公民館を運営しているのは貝塚だけ？
というぐらゐの状況だ。

貝塚新生プラン



ある時、市ホームページで「貝塚新生プラン」というものを見つけた。

<https://www.city.kaizuka.lg.jp/kakuka/sogoseisaku/zaisei/menu/gyouzaisei/index.html>

ここには「社会教育施設利用に関して受益者負担の見直し」という項目があった。そしてこのプランどおり、2015 年 10 月、一部有料化が始まった。

「ほんの一部だけご負担願います」「一部負担して利用できるなら…」「お金出して、もっと自由に使えるなら…」実はこの考えがとても危険。

公民館は社会教育を学ぶところ。公民館は趣味や習い事を安くできるところというイメージがあるかもしれないが、それはほんの入口で「いかに人生を豊かに生きるか？」を公民館で出会い、仲間となった人々との語り合いや実践の中で見つける場。

自身の困りごとと悩みごとは、往々にして社会課題から産まれるもの。そのことに気づき、その社会課題を「我が事」として捉え、課題解決のために自身ができることは何か？ を考え、できることに取り組む。そういう人材を育てているのが公民館。教育は学生の時だけのものではない。学校教育以外の全部が社会教育で、生きている間はずっと学び通しなのだ。

その学びにお金がかかるとなったらどうなるか。無料だからこそ、誰もが平等に学びの場と機会を享受できるのだ。

そういう学びと実践の場と機会を、貝塚の公民館は市民に対して 70 年間保障してきた。結果、自分たちの地域を、自分たちの手で、誰もがより暮らしやすい地域にする「地域を耕す人」をたくさん輩出してきた。

2012 年 3 月に、3 公民館で連続講座が開催された。

テーマは「新しい時代に、公民館が求められるもの」。

その当時から公民館のあり方にモヤモヤしていた私は、最後、浜手で開催された講座の最後で思わず叫んでしまった。

「この 3 館連続講座を聴いて、いつもの活動を公民館が考えていかなあかん。いつもの活動をどうしていくか、今日先生のお話を聴いて、これから具体的にどうしていくか、を私たちが考えなあかん。これは職員だけに任せておいちゃあかんやろ。それは職員と一緒に利用人も、そういう話ができる場を一個作りたい。作ってほしいとは言いません。作りましょう、みんなで！」

当初は想いに共感してくれそうな利用者をあたり、一緒に活動していくつもりになっていた。

「こんなことをやりたい！ やらせてほしい！」と公民館に伝えたところ、当時再任用職員だった植田さんから「3 公民館から職員、利用者を出してやったほうがいい」という提案があり、それを受け入れることにし、「しゃべり場★公民館」はスタートした。（記：朝日）

公民館に説明するために使用した書面

この3館連続講座を聴いて、いつもの活動を公民館が考えていかなあかん、と。いつもの活動をどうしていくか、今日先生のお話を聴いて、これから具体的にどうしていくか、を私たちが考えなあかん、と。これは職員だけに任せておいちゃあかんやろ、と。それは職員と一緒に利用者也、そういう話ができる場を一個作りたいな、と。作ってほしいとは言いません。作りましょう、みんなで。

お互いのことを知りあい、違いを知って、認め合う場
課題を共有

「ちょっと違うよね」「こんなんあったらいいのかな」「こんなことできたらいいのに」が提案できる人

みんなが自分のことを考える

みんなが自分たちの町のことを考える

私は、連続講座を聴いての感想会みたいなのを開きたいと思っています。
それは職員とか利用者とかの区別なく公民館に集う人、公民館を愛する人（←野暮な言い方ですが）を対象にしたいと思っています。
それをとっかかりに公民館とは？とか公民館のこれからはどうなるのか？とかそういうことを職員、利用者が同じテーブルで話ができる場を作りそのうえで、公民館が公民館であり続けるために
じゃあ職員ができること、利用者ができること、というふうな役割分担ができればいいと思っています。

私の妄想はだいぶ膨らんでいてその話し合いの中から、公民館活動の中身を発信するニュースを作れたら、とかひいては2年後にある60周年事業もそこで発信できたらいいな、とも思っています。

社会教育委員も今していて、公民館の危うさを日々感じています。

私は利用者の意識の問題も大いにあると思っています。自分たちだけの公民館になっていないか、数年前、公民館まつりの実行委員会に出席していた時それをイヤと言うほど、感じました。

今から何か手立てを打たないと公民館は公民館でなくなってしまうという危機感を持っています。

やはりそれは職員発信では難しいだろうというのも思っています。

私は利用者から声を挙げていくのがほんとの姿だろうと思っています。



しゃべり場★公民館 2013 年度（平成 25 年度）振り返り

「公民館そのもののあり方を考える」という俯瞰的テーマや「職員と利用者が対等の立場で話し合う」という設定が新鮮に感じられ 2013. 2. 19 のしゃべり場★公民館（以下、しゃべり場）から参加した。いろいろ公民館にお世話になった身としては、公民館のためにできることはしたいと思っていた。例えば利用者に公民館のことを深く理解してもらおうとか、公民館の良さを広く市民に伝えるとか。

有料化の話聞いたとき、公民館の価値と重要性は貝塚市政にしっかり根付いているという思い込みに気づいた。無料で自由に使える公民館が持つ、ある意味居心地の良さに甘えていたのかもしれない。市は「市民に公平な負担を」というが、公平の議論は恣意的になりがちであり、しかも市民対行政という圧倒的ハンデ戦である。行政判断においてメリットが過大視されてはいまいか。見過ごされているデメリットがあるのではないか。

2013 年 5 月 31 日に「公民館に関わる色々な人の話を聞こう」という企画で、1986（？）年の「ヤングフェスティバル」という公民館の青少年イベントの実行委員長だった私が話すことになった。

何を話したか記憶は曖昧だが、拙い話に耳を傾けてくれたことは思い出せる。聞いてくれている安心感は、以来しゃべり場で発言するときの安心感につながったと思う。しゃべり場のメンバーに感謝。

いつの時代でもそうだろうが 80 年代の若者たちも熱中できる何かを求めている。当時の公民館では熱心な職員による青年向け講座が運営されており、中高生から 20 代 30 代の若者たちが集まっていた。ヤングフェスティバルという身の丈以上とも思えるイベントが開催できたのは彼らの潜在的エネルギーに加え、それをうまく引き出しコーディネートした熱心な職員の存在があったおかげである。そこには若者の成長があった。迷いながらもなにかに取り組みやり遂げる。やったという達成感が「私、いいね！」の自己肯定感に、そして「私はやれるんだ」という自信につながる。

多様な個性の若者たちが起こす化学反応。反応の激しさはその分子の持つ極性に比例する。常に暴走する危うさを含みながらも同世代の安心感と共通の目標があることでつながりが保たれていた。若者たちは基本楽しいから群れる。けれどそこにはぶつかり合いもある。そして悩み問う。他者に、そして自分に。「なんで？」嫌な思いをしたり傷ついたりするが、それだけ深く自分という存在に向き合う。心の動きを見つめ考え方を確かめ価値観を問い直す。深く内省するこの作業は言葉を介して行われ、そして言葉の大切さに気づく。

当時の青年講座で学んだことは「ベクトルを合わせれば大きな力になる」若者は自分の中にあるベクトルの大きさや方向に気づいていない。それは他者によって発見されることが多い。ここに集うことの意味がある。他者との交流の中でフツーの子が大化けすることもあるのだ。

2013 年 6 月 20 日 話を聞く会「文化の力で立ち上がれ」（上岡兼千代氏 当時 85 歳）

貝塚公民館創設メンバーの一人である上岡さんは戦後復興のエネルギーをリアルタイムで経験している。それ故か、その語りからは歴史や時代の大きな流れと貝塚公民館の発展とその後の変化がダイナミックに伝わってきた。時代に求められ



た公民館だった。今はどうだろうか。

今も残る山口草堂の句碑「かかわりなく刻む春陰の時計」を紹介されたのは、文化の素晴らしさと限りある人間の命を想起し大切にせよとの戒めと感じた。

2013年6月26日 枚方公民館視察

何事にも栄枯盛衰はあるといえど、あの枚方が暗い感じの貸館と化した姿にがっかりした。当時の枚方市民のエネルギーがあつた枚方ターゼを生み出したと思うが、時代の変化につれて教育委員会から市長部局に主管が移り、行政サービス業となり果て、社会教育の理念は失われたようだ。

貝塚においては、公民館利用者は単なるお客様ではなく、学びの主体であり、職員とともに成長し、まちづくりにつながる活動が展開されている。枚方ターゼに学び理念を引き継いでいることに誇らしさを感じた。

2013年11月3日 山手地区公民館ロックバンド連絡会と話し合いの場を持った。連絡会は前述のヤングフェスティバルの流れをくむ組織で、懐かしく思うと同時に青少年の音楽熱は絶えることなく続いていることに頼もしさを感じた。

公民館は地域での子どもの居場所として貴重である。やりたいことができる公民館は便利で利用価値の高い施設。利用するのは「身近にあつて便利だから」「子どもの時から通っているから」である。これは公民館のハードとしての存在理由であり、行政サービスとして重要な点である。しかしただそれだけでは便利な道具に過ぎず、不便になったり嫌なことがあつたりすれば移り気な若者は去っていく。思えば昔の私も同じようなものであつた。

しかしそうはならないのが貝塚の公民館である。職員は利用者の方を向く。声をかける。たとえ拒否されても様子を見る。気にかける。ここでも職員の存在が重要になってくる。たまり場・居場所としての公民館は大切にしなければならないと思う。いつの時代も社会は若者という存在に揺さぶられるが、最も揺さぶられているのは若者当人ではないか。成長に社会（つまり彼らのいう大人）が強く影響する大人たちの責任は重大である。

2013年11月26日 中央公民館「ホッとワーク（視覚に障がいのある方対象）」講座生としゃべり場

障がい者の方と直接話せる機会が持てたのは良かった。日常的な接点がないので障がい者についての知識が表面的でステレオタイプになっていた。直接話し合うと、近所のおじさんおばさんのように感じられ身近に感じる事ができた。障がい者理解はまずあつて話してみることから始まるのだと思った。「障がい者だから〇〇だ」という先入観にとらわれがちだが、気軽に声掛けしたり話し合うことで認識が改まる。今は障がいの概念も広がり外からは見えない障がいも認知されるようになってきた。

障がいとはなにか生きにくさを抱えている状態だと考えると、人は誰でも何かしら問題を抱えているので障がいと健常の境は限りなく曖昧になる。結局相手を理解しようとする態度が大切なのだと思う。

いずれにせよ、公民館には来てみないと何も始まらない。「こなくちゃわからん公民館」なのだ。

（記：馬場）

しゃべり場★公民館 2014 年度（平成 26 年度）振り返り

① 出来事

1) 公民館一部有料化について

市議会議員が審議して一部有料を実施するとは思っていなかった⇒自分の認識不足
市議会で公民館一部有料化が審議されるとの情報が入り、一部のメンバーで反対してくれるよう要望に行った。一方で議会の傍聴にも行った。

2) 公民館大会について

第 2 回より全大会に参加しているが、またコスモスシアターを一杯になるようにしたい。
年々内容は濃くなっている。

この年は、しゃべり場のリーフレット「公民館の学びを地域へ」を作成し、公民館大会にて配付した。



3) ライフヒストリー

第 2 回公民館大会の 4 分科会の DVD を見て、「いろいろな人にもっと話を聞きたい！」
ということから、この年は「個人のライフヒストリー」を聞くことにした。

合計 12 回（個人 6・団体 2）から見えてきた公民館との出会いと、そこから今に至る活動の話は、その場に居合わせた人達に感動と共感をもたらし、しゃべり場メンバーも毎回新しい気づきがあった。

この 10 年間を振り返っても、この年ほど「話を聞く」に特化した年はなかった。

メンバーも忙しい中、互いにやりくりをして参加し、ミーティングでは振り返りをし、この時一気に公民館内で知り合いが増えた。

公民館に何気なく立ち寄り、好きな活動をしているうちに、いつの間にか活動以外でもつながりができ、ずっと公民館に通う人もいれば、公民館を離れ、地域の地域で公民館の学びを広げている人の多い事に驚かされた。

公民館活動を通じて人のつながりの大切さ、仲間や居場所ができることの喜びを感じた経験が「地域でも！」という行動につながったのではないかと感じた。

（記：中野）



しゃべり場★公民館とわたし（中野 伸和）

- しゃべり場★公民館に入った理由やきっかけ

2010年4月に活動協議会副委員長になり3年活動していた。

2013年4月に活動協議会委員長に就任、委員長になると公民館活動が山手地区公民館だけでなく中央公民館、浜手地区公民館との付き合いが多くなった。

3館利用者連絡会、公民館運営審議会、各館の公民館祭り、貝塚公民館大会等でしゃべり場★公民館、貝塚の知恵袋、あそび隊、傾聴グループそよ風、子育てグループの人と出会った。

- なぜ現在まで続けているか。

いろいろな活動を通じて、地域の人と繋がり、楽しく人との交流することができ、喜ばれ、つながることができるので、今後も公民館に来て良かったと言えるよう、口コミで公民館の良さを伝えていきたい。しゃべり場★公民館、貝塚の知恵袋、傾聴グループそよ風を継続して続けている。



しゃべり場★公民館 2015 年度（平成 27 年度）振り返り

10 月より社会教育施設の利用が一部変更となり、公民館でも使用料の一部負担が必要となることをふまえて、あらためて「公民館について、さまざまな角度で語り合おう」というテーマで取り組みが始まった。

まず…

①阪南市立西鳥取公民館利用者「中西智恵子さん」に話を聞いた。

中西さんは 21 年前に阪南市へ移り住み、公民館を利用するようになる。

講座の受講をきっかけに、クラブを立ち上げ、クラブ協議会の役員、その後クラブ協議会の会長を 11 年間していたが、その間に公民館使用料が有料となった。

有料になり、しばらくすると地域の人が公民館を使用しなくなり、あれほど人が集い、賑やかだった場所が、いつの間にか人のいない、とても寂しい場所となり、夜などは「し～ん」としている。

また、阪南市の公民館でもクラブの役員のなり手が無い。役員をすれば（いいこともたくさんあり）変われるのに。

貝塚公民館の「しゃべり場★公民館」という組織があることがとてもうらやましい。

しゃべり場が利用者と職員が一緒になって公民館のことを考えているのが素晴らしい。貝塚公民館が阪南公民館のようになって欲しくない。

カルチャーセンターは自分のため、自己満足のための場所だが、公民館はいつでも行けて、仲間がいて、居場所があって、つながりがある。

仲間とは、フォローできる、助け合える、どんな人でも受け入れができる関係のこと。

利用者も講師も職員も意識の向上と勉強が必要。

②三館利用者連絡会（中央公民館・山手地区公民館・浜手地区公民館の利用者団体の代表の集まり）の役員やクラブ員としゃべり場で、一部有料化について思うことを自由に語ってもらった。

「これくらいならいいというのが正直なところ」

「まだ、はじまったところなので実感がない」

「少々の負担は仕方ない、とのクラブ員が多い。」

公民館に対する気持ちは人それぞれで、公民館とは「学びの場」という基本の認識が大切。

時間はかかるが、「公民館に来たから元気になった」「公民館に来て楽しいね」の積み重ねで気づくことがたくさんある。

③公民館の学びを地域へ、公民館の実力を PR するには？

クラブ訪問の時に「沖縄三線あかばな」が、地域に出かけ、演奏し喜んで頂けるのが一番嬉しいとの話を聞いた。そこで、自分の町会行事につなぎ、いきいきサロンで沖縄三線の演奏を聞く機会を設けることができた。

（記：秋本）



しゃべり場★公民館とわたし（秋本 道代）

私自身、しゃべり場★公民館の立上げメンバーになったのは、浜手利用者連絡会の委員長をしていた時、職員から声かけがあったのがはじまりです。

公民館のこともよくわからないまま、クラブ活動を楽しんでいただけの私でした。でも、朝日さんや植田さんから熱い話を聞くうちに「公民館とは学びの場」であり、自分だけの楽しみの場所ではないとわかってくるようになりました。

夜の時間に関催したしゃべり場ミーティングで、担当をはずれた職員も加わり、熱いトークがあり、次の会議の話題にもつながりました。

公民館は、私にとって「自分になれる場所」だと思います。

しゃべり場★公民館とわたし（藪田 昭）

○公民館活動に参加して

63 歳で退職した後しばらくは、家に籠ってそれなりに気楽な暮らしを楽しんでいました。子供たちは既に独立して家には居りません。

そんな暮らしの中で気付いたことは、地域に知り合いや友人がいないことでした。

そんな時、貝塚市広報に掲載された「公民館活動」を目にした事が英会話クラブを訪ねるきっかけでした。初日はそれなりに緊張して臨みましたが、簡単な自己紹介の後、すっかり仲間として受け入れてくださり、クラブの終わりには既に、「来週も来よう」と思っていました。程よい人数の仲間で簡単に打ち解けあうことが出来ました。親切に声を掛けてくださった先輩や教師、快く受け入れてくださった仲間感謝しています。

クラブ活動に参加して仲間と楽しむ時間は、すっかり私の生活の一部となりました。費用も格安です。公民館で活動されるメンバーは、圧倒的に女性が多いことに気付きました。男性は新しい世界で気軽に人間関係を作ることが苦手です。ウォーキングやトレッキングをしている時、男女の行動の差が良く現れます。初対面の男性はぎこちない会話を交わしつつ目的地の方向とか先行するメンバーとの距離を測って、自分の立ち位置を探す習性があります。逆に、女性は、初対面でもすぐに打ち解けあって旧知の仲のように会話を楽しみます。時々お喋りに没頭して、先行グループと大きく離れても気になりません。

概して女性は社交的で新しい人間関係にすんなりと馴染んで会話を楽しむ能力を持っているところが男性との違いだと思います。

公民館に集うメンバーが圧倒的に女性であることは、こんな所にも理由があるのかも知れません。

しゃべり場の存在を知ったのは 1 年前です。

利用者連絡会定例会でお世話になった職員に声を掛けて頂いたことがきっかけでした。しゃべり場は私にはなかなか難しい会議です。何の話をされているのだろう?? 毎回の会議後は反省の連続です。

一日も早く皆さんのレベルに追いつけるよう頑張らねばと思っています。

そして、まだ公民館の存在を知らない方々に、新しい居場所や仲間を発見できる活動が格安で出来る場所が公民館だとお伝え出来るようになりたいと思います。

しゃべり場★公民館 2016 年度（平成 28 年度）振り返り

5 年目を迎えた。改めてしゃべり場の目的を確認し、活動の閉塞感やそこで出たアイデアが活かせていないという課題を共有した。

「しゃべり場があったから公民館の重要性を学べた。」「利用者同士が知り合える場にしたい。」「公民館の大切さを知る場にしたい。」「利用者も職員も一緒に公民館について考え学ぶ場にしたい。」

↓↓↓

しゃべり場の目的

「公民館が公民館であり続けるために、何ができるかをみんなで考える場」（みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと） ふらっと来てしゃべれる場・つながりあう場を目指す。

今年度の活動目標

- ・クラブ役員たちとのつながりを持ち、しゃべり場で出たアイデアを提言していく。
- ・貝塚公民館大交流会に参画

しゃべり場メンバー（以下、メンバー）が固定化し、ミーティング内容が内向きになりがちで、もっと外向きに広げたいとの思いがあった。

メンバーを増やしたいが、なかなかそうならない。しゃべり場を知ってもらうためにも「しゃべり場カフェ」を企画した。

「利用者の声を集めたい、待っていても人は集まらない、人が集まるところに飛び込んで行こう」と、クラブが終わる頃にロビーでクラブ員に声をかけ、話を聞いた。

6/27 山手役員会（14 人） 7/4 山手定例会（58 人）

7/5 中央ロビー（13 人） 7/7 浜手ロビー（21 人）

山手地区公民館でのカフェ開催は、メンバーの中野さんが、山手活動協議会の委員長だったのでスムーズに開催できた。委員長を長年しており、役員たちとしっかり繋がっているからだと感じた。

「公民館にきたきっかけ・来てよかったこと」「今困っていること」などお茶を飲みながら、ざっくばらんに話し、クラブ交流や異世代交流が自然にできる場。「このような話し合う機会が欲しかった」「メンバー以外の声をもっと聞きたい」と意見がでた。

↓↓↓

貝塚公民館大交流会では、中心的存在として関わることになった。

実行委員長に朝日さん、副実行委員長に木村さんとメンバーの 2 人が立候補した。

初回の会議で「公民館を一生懸命に考えるのもいいが、そんな人ばかりではなく、むしろ『クラブが楽しければいい。』という利用者が多い。そんな人たちに寄り添うことも必要ではないか。」との発言に、「楽しくできるのは今のしくみがあるからで、もし、公民館のしくみ自体が大きく変わるとなればどうするのか？そこまで考えが及んでいるか？」と、そこから公民館活動の課題・目的が見え、利用者間のギャップや危機を感じ、立候補を決めたそうである。



2/25 貝塚公民館大交流会（第5回貝塚公民館大会） 参加：178人

テーマ「無理なく公民館活動を続けるコツ」でグループトーク

公民館活動での困りごとや悩みを出し合い、解決方法について意見交換

講師からは公民館の歴史や公民館をとりまく全国的な状況と、「私にとって、私たちにとって、みんなにとって公民館がどういうところか、またそのために公民館をもっとどうしたらいいかを考えてほしい」という助言もあり、翌年からこれをベースに引き継いでしゃべり場カフェにも活用することに決めた。

私の考えたものは①私にとって公民館は人が育ち合う場です。

②私たちにとって公民館は学びの場です。

③みんなにとって公民館は憩いの場です。

④そのために公民館をもっとつながり作りができる場にしていきたいです。

大交流会終了後に実行委員数人で壁新聞（公民館大会集大成として）を作成した。壁新聞を作る作業を一緒にして、メンバーを増やす目的もあった。

（記：麻生川）



しゃべり場★公民館とわたし（麻生川 美紀）

私がしゃべり場に関わるようになったのは、貝塚子育てネットワークの会の役員をしていた頃に朝日さんの声かけからです。公民館活動のことが、あまりわからなかったこともあり、自分の勉強として関わるようになりました。当初、行ける日だけミーティングに参加のつもりが、私たち利用者が公民館のことを考えていくことが必要だと感じだし、徐々に主体的に関わるようになりました。そうするうちにメンバーとも親しくなり、職員とも話す機会が増え、公民館クラブや、他団体の話を直接聞くことで、さまざまなことを学びました。

公民館で活動する自分たちが学び、いろんなクラブや団体とつながること、公民館活動の大切さを伝えていきたい。という思いがだんだんと芽生えていくようになり、今でも関わっています。



しゃべり場★公民館 2017 年度（平成 29 年度）振り返り

1, 遊び隊&プレーパーク&しゃべり場☆交流会

「どんな想いでそれぞれ活動しているの？」そんな互いの活動や想いを聞いてみたい・・・そんなことがきっかけで交流会が実現した。

家族以外の大人である「あそび隊」とのふれあいは、子どもの育ちが豊かになる。お互いの思いを伝えることで多くの学びや気づきがあり、これからも子どもの遊びを通して、つながりながら活動して、発信できることがあると確認しあう貴重な時間だった。

2, しゃべり場カフェ

今年度のカフェは、前年度の第 5 回公民館大交流会(公民館大会)に参加出来なかった人からも公民館に来たきっかけや悩んでいること、みんなの公民館になるために何をしているか、などを話題にして話し合うことで、共有する場となった。活動のきっかけは人それぞれだが、人生をより良くしようという思いは共通にある。公民館は「集いの場」「憩いの場」「学習の場」などの発言が聞くことが出来た。公民館での学びを地域にどのように還元しているか、新しい人が入った時のレベルの差をどう解消するか、それぞれクラブで努力や工夫している様子も知れた。反面、クラブの存続や運営、部屋の使用料、公民館まつりや利用者連絡会のしくみについてなどの問題点や悩んでいる現状も出された。そんな中、クラブの雰囲気はクラブ員の気持ちや態度次第で、良いものにも悪いものにもなる。「クラブの内容よりもクラブ員どうしが仲良くなることが大事！」と言うみなさんが頼もしく感じられた。公民館は敷居が高いと思う人が多いと聞くが、たくさんの人に来てもらう仕掛け作りが課題であるとの意見もあった。

クラブ活動の前後に時間の都合をつけて参加した方、たまたま居合わせ参加した方と様々であった。クラブ活動に深く関わっている職員の声掛けで「〇〇さんの声かけなら」と参加した人も多く、職員の人柄も利用者の学びに大きく影響していることを実感した。

普段はあいさつ程度であまり話をしない人とも話せるのが「しゃべり場★カフェ」である。利用者と職員がお互いのことを知るきっかけのひとつでもあることにも気付かされ、これからもたくさんの人とつながっていける公民館でありたいと思う。

3, 第 6 回公民館大会への参画

しゃべり場カフェで出される意見を公民館大会に繋げていこうと確認した。しゃべり場のメンバーを増やすことも大切と考え積極的に参画した。

(記：木村)



しゃべり場★公民館とわたし（木村 恵美子）

約 18 年前にダンス系のクラブに加入し、ダンスの楽しみと大切な仲間ができ、子育てや家事に追われている日常から、公民館に来ることで元気をもらえる場所となった。クラブの為に、輪番制のクラブ協議会役員をすることになったが「何がなんだか分からない状態で義務的に会議に参加するしかなかった 1 年目」「やっと 2 年目が終わるころ役員でしゃべりすることがなんとなく楽しい」に変化。ドキドキしながら意見発表しても受け止められ、ホッと出来る魅力ある場所となった貝塚公民館。まつりの実行委員会や公民館大会実行委員会でクラブ以外の利用者とも交流が広がった。利用料の 3 割負担になる契機に貝塚公民館について深く知りたいと思い 2014 年より「しゃべり場☆公民館」のメンバーとなる。「面倒」と思うことでも、皆さんとつながり励まし合いで乗り越えていこう。貝塚公民館が人とつながる学びの館でありつつける為に。

しゃべり場★公民館とわたし（朝日 陽子）

しゃべり場を始めようと思った 10 年前（正確には 11 年前）、私は血気盛んだった。しゃべり場以外にも「貝塚公民館こどもまつり（2 年目からは「貝っ子わくわくフェスタ」に名称変更）」を始めたという過去がある。

しゃべり場を始める 4 年も前のことだ。

当時の公民館職員が一市民の私が「やりたい！」ということに耳を傾け、一緒に考え、サポートやアドバイスをしてくれた。

それがなければしゃべり場も貝っ子フェスタも開催できなかっただろう。

そしてしゃべり場は 10 年続いた。

正直途中でやめてしまいたいと思ったこともあった。

テンション低くミーティングへ参加。

そこには熱く語る仲間たちがいた。

その熱さに反省させられ、触発され、消えかけた公民館愛の火がまた高く燃え盛るのだった。

職員も含めて、この仲間がいたからしゃべり場は 10 年続いた。

何かを成し遂げたいと思った時、一番大切なのは仲間の存在。

志を同じくする仲間とともに議論を交わし、そして活動を創り出す。

この繰り返しが大切で、これこそが社会教育なのだ！

それを確信できたのも、しゃべり場を 10 年続けてきた成果のひとつだと思っている。

しゃべり場★公民館 2018 年度（平成 30 年度）振り返り

この年は各館で昔の公民館（公会堂）の映画を見て、当時の利用者の様子や時代背景などを知り、感想や今との違いについて話し合った。

映画では、昔、貝塚には紡績工場が多かったこともあり、利用者は若者が多く熱気に満ちあふれていた様子が映し出されていた。

中央公民館

当時の公民館の利用者は地方出身の若者が多く、公民館が出会いの場、学びの場だった。キャンプに行ったり、演劇の発表なども活発で、映画を見た感想として「今とは全然違う」「力みなぎっている」「私も元気を貰った」などの声を聞くことができ、公民館活動を振り返る機会となった。



浜手地区公民館

文部科学省から授与された賞状と盾を飾り、貝塚公民館を誇りに感じた人もいた。映画が始まると、「あっ、あの人が知ってる」「当時から公民館を利用していた」「山の子山荘に行っていた」などと、当時を思い出し、懐かしむ声も聞かれた。「当時の人は学びたければ公民館（公会堂）に行った」「働きながら学べる場所だった」という声もあった。

山手地区公民館

ロビーコンサートに来た人、クラブを中断して見に来てくれた人も沢山いた。

映画を観た後、グループに分かれて、今と昔の違いなど感想を自由に話し合った。公民館の歴史を知り、今も変わらない公民館の役割について考える貴重な時間となった。

- ・ 当時は若者の出会いの場が公民館だった
- ・ 夜遅くまで若者が集まり賑わっていた。
- ・ 現在の利用者は年齢層が高いのもっと若い人にも来てほしい。
- ・ 市外から嫁いで来て、貝塚公民館で友達が出来た。

（記：石原）



しゃべり場★公民館とわたし（石原 隆則）

きっかけは何年か前、あそび隊の関係で「貝塚子育てネットワークの会」の会議に参加していた。その時に、若いお母さん達の中に場違いの「おじさん」が混じっているのが目立ち、声をかけられた。

しゃべり場に在籍を続けているのは、公民館を守ろうとする色々な人と知り合いになれば、話が聞け新しい情報を得られるからと思う。

私事

19年に私が入院して落ち込んでいる時、公民館の有るグループがLINEで「病気に負けないで」「リハビリ頑張って」とか「必ず公民館に帰って来て」と励ましの言葉を送ってくれた。

それが私にとって凄く嬉しく、どれほど勇気付けられ、リハビリを頑張れた事か。そのことが、今でも公民館活動が出来ている源泉の様に思う。

しゃべり場★公民館とわたし（馬場 則彦）

しゃべり場に参加したのはやはり公民館に関する問題に関心があったから。同じ問題意識を持つ人達と話し合うことで共通認識が深まればいいなと思った。といえどかっこいいが、要は知らん顔できなかったということ。初めは「さあ大変、なんとかしなくちゃ！」と気負い込んでいたけれど、そんな思いは続くはずもなく、アレコレ試しては「うーん、なんかイマイチ」と迷いの日々。それもそのはず自分の立ち位置がはっきりしないから言葉が上滑りして話がウロウロするのである。要はわかってないからそうなるわけ。けれどコツコツ続けることで、自分の中に何かしらベクトルのようなものが作られてきた感じが今はある。

しゃべり場そして公民館は、私にとって社会とつながる場所であり、考える機会の場としてはとても貴重なものです。公民館で育った私にとっては「命をつなぐ大切な餌場」のようなもの。たくさんの栄養をいただきました。

公民館に来てクラブ活動して友だちとおしゃべりしてああ楽しかった。それはとても素敵なこと。でもそれだけで終わってはつまらない。ちょっと時間を割いて、少し深い話をしてみる。せっかく知り合えた人と挨拶だけの関係で終わるのはもったいない。いま感じていること、少し言いにくいことでも思い切って言う。意外と「そうそう！私もそう思う！」と共感を得られるかも知れない。そこから互いに学び合ういい関係が生まれるかも知れない。人生は出会いであり自分語りの連続だと昔教えられました。

日常の流れの中で少し立ち止まり自分に向き合ってみたり、生き方を振り返ってみたりする。考えることの大切さはわかっているけどなかなかできないけれど、公民館に来れば仲間がいる。相談できる職員がいる。褒めすぎかも知れないけど、こんな良い学びの場所は他にないと思います。最後に、願わくは一人でも多くの方が公民館で出会い、学び、つながることの意味を実感できますように。

しゃべり場★公民館 2019 年度（令和元年度）振り返り

リーダー（世話人）研修開催（ロールプレイ形式のグループトーク）

- ・目的⇒⇒⇒協力して（動いて）もらう考え方・スキルを身につける事や、現在リーダー的存在で活動している人の話を聞くなど委員を楽しんでもらえるよう導く
- ・ねらい⇒⇒⇒・リーダーが全部一人で背負わなくていい
 - ・メンバーで話し合い、支え合える関係づくり
 - ・世代交代できる人材を育成する

しゃべり場の新リーフレット作成（公民館大会で配布）

- ・タイトル⇒⇒「公民館ってなんだろう？」
- ・目的⇒⇒公民館のことを一緒に考えるきっかけ、仲間を増やすため
- ・内容⇒⇒しゃべり場の成り立ちや活動内容、公民館ってどんな場所か？公民館での学びを紹介



6/29(土)～30(日)しゃべり場★合宿 in 大阪府立少年自然の家

しゃべり場運営メンバーの新年会で呑みながら熱く語り合っていた時に、「時間制限なくもっと語り合いたいね！」「しゃべり場で合宿をしよう！」と盛り上がったのがキッカケで開催することになった。しゃべり場メンバーの他、その家族や公民館利用者等も含め 22 人が参加した。

最年少 3 才から最年長 75 才まで、みんなで一緒に BBQ の準備、自己紹介、お楽しみのキャンプファイヤー、ゲームと盛り上がった。子どもより大人の方が懐かしさもあり楽しんだ。夜は大人だけで公民館について熱く語り合い、とても良い時間になった。

（記：南河）



しゃべり場★公民館とわたし（南河 真由美）

第8回公民館大会は基調講演の他に4つのテーマに分かれて分科会を行うことが決まった。私は第3分科会のリーダーを引き受けることになった。第3分科会のテーマは「地域と公民館をつなぐ活動」について、公民館での学びをどう活かすかを考えることがゴールだった。パネラーは当初、別の人と決まっていたが、事情がありパネラーも私が引き受けることになった。それに伴い、テーマも「私を変えた公民館活動～公民館から地域へ～」に変更された。

私の記憶が正しければ自分から「パネラーを引き受けます。」と言った気がする。ちょうどその頃、自治会の子ども会の会長をしており、まさにテーマの公民館から地域で活動をしていたからだ。人前に立つのが苦手で自分の意見なんて言えない私がリーダーや会長を引き受け活動している。そんな自分の変化や経験を話せる機会となるはずだったが、コロナのため開催中止になった。

中止になって残念な気持ちと、原稿がまだ完成していなかったのでホッとした気持ちがあった。コロナという新型ウイルスでそれまで当たり前だった日常が、当たり前ではなくなったことがショックで不安だったけど、そんな時に助けになったのが共に活動してきた仲間の存在。

私にとって公民館は学びと気づきが得られ、成長できる場、仲間と集える場、公民館での活動があったから今の私がある。そんな私もしゃべり場メンバーになって6年目、きっかけは2017年度の公民館大会実行委員会のメンバーとして関わり、その延長で参加したしゃべり場のミーティングで、気づいたらメンバー入りしていた。特に辞める理由もなく、今も関わっている。

しゃべり場★公民館とわたし（土井 良子）

私は、自分が活動している貝塚子育てネットワークの会の麻生川さんに誘われしゃべり場に参加しました。同じ時期、その年の公民館大会の実行委員会にも参加しそこで実行委員として参加していたしゃべり場メンバーの皆さんがすごく積極的で、それが面白く感じたことが続いている理由だと思います。

2020年度クラブ訪問の「地固め」は、私にも自分の微々たる行動が実は貝塚市民に影響を与えているということを意識させてくれました。市民が市民に向けて行動しているしゃべり場の活動は、貝塚で社会教育が根付いている証だと思います。しゃべり場のスローガン「公民館が公民館であるために」に近づいたように感じ、また一歩マニア度が進んだなあ～と思います。

しゃべり場★公民館 2020 年度（令和2年度）振り返り

2020 年度は新型コロナウイルスの世界的な蔓延により日常生活が一変した。普段何気なく利用していた公民館が私たち市民にとってどれだけ大切な施設であったかを確認した1年でもあった。

緊急事態宣言が発出され停止していた活動は、公民館は6月半ばから、しゃべり場は7月から再開した。

この年の活動はクラブ訪問を軸に、クラブ員に自粛中の気持ちや活動の変化から「自分にとっての公民館とは？」を考える機会とし、しゃべり場からのメッセージを伝え「地固め」をした。

■これまでのクラブ訪問で各々が感じていたことを出し合い、クラブ員に伝えたいしゃべり場からの「メッセージ」を考えた！

しゃべり場はなんのためにクラブ訪問をしているのか、目的を再確認！

- ・しゃべり場★公民館を知ってもらうため。
- ・クラブ内で話し合うきっかけ作り（クラブの歴史やお互いのことを知り合う）をするため。

もっと上手に話を進められたら、聞いているクラブ員も理解が進むのでは？そのための手順を確認！

- ①「しゃべり場」のリーフレットを活用して説明。
- ②全員で簡単な自己紹介をする（時間をとりすぎないように）。
- ③クラブの成り立ちを簡単に話してもらう。
- ④「コロナ禍で感じたこと」などを話してもらう。

公民館は自分のスキルを上げるためだけではなく「みんなで作り上げている大切な場所」という着地点にたどり着けたらいいな。時間や参加者の顔ぶれでいろいろ意見が出ると思う。→ 話を引き出すために3つの作戦(ABC)を立てた。

●Aプラン「私にとっての公民館」

- ①公民館にきたきっかけは何ですか？
- ②公民館にきて何か変わりましたか
- ③公民館ってどんなところですか？

●Bプラン「公民館の歴史を知ろう！」

公会堂時代の公民館の記録映画「公民館」を観て、感想等を語り合いましょう。

今後、CプランDプランも考え、クラブがプランを選べるようにしていく。

例えば「講師がやめるといっている。どうしますか？」「講師がいなくなったら終わりですか？」

●Cプラン

- ①コロナで公民館が閉鎖されていた時期どうすごしていましたか？
- ②クラブ再開後いかがですか？
- ③こんなことはあってはほしくないのですが、再び公民館が閉館された時、クラブはどんなことができますか？（できる・できないは関係なく、自由に話してください。）



クラブ員の気持ちを引き出した後、しゃべり場から伝えたいことって何だろう？

- ・クラブは誰が見学に来てでも受け入れ、説明を行い、希望者はその日からでも入部が可能である（コロナで制限有）。クラブ員は自分の楽しみのために活動していると思っけていても、クラブを維持していくことが実は「楽しむために何かやりたい」という人に“場”を提供することに繋がっている。それは貝塚市の文化的財産だ。「市民のために様々なクラブという場を維持している」ことを共通認識で持って欲しい。
- ・本庁建て替えに合わせ中央公民館の駐車場有料化の話が出ている。有料になるとクラブの維持が難しくなる。無くなってしまったら貝塚文化の大きな損失だ。有料化までに共通認識を持ってもらえるよう、地固めをする必要があるのでは（今の状態ではクラブは「自分のため」の活動をしていると解釈されたままで、何か問題が起きると「仕方ない」と簡単に無くなってしまおうおそれがある）。
- ・公民館利用者だけでなく利用していない人の意見を聞く機会が必要だと思うが、現在は利用していない人に向けての情報発信が不十分。まずは利用者で意見を出し合う必要がある。
- ・クラブの人たちが集まってするグルーptークをクラブ協議会の研修会で実施したい。



最後に「地固め」としてクラブ員へ伝える、しゃべり場からのメッセージ

「皆さんは自分のお楽しみと思ってクラブ活動をやっているかもしれませんが、未来のやりたい人のために場を維持し守っているんですよ。そのことを意識の片隅に置いておいてください。」と伝え、毎回伝えるようにする。

訪問した8つのクラブ

中央：ホロホロウクレレ、彫金クラブ、
人形劇あひるクラブ、貝塚ハーモニカクラブ
山手：男のヨガ、金曜ストレッチ
浜手：浜手川柳、浜手囲碁



今年度のクラブ訪問を終えて

訪問先によりプランを変え、自宅での自粛中の気持ちやクラブ活動の変化、公民館という施設が自分にとってどういった意味を持っていたのかを考える機会とした。8つのクラブを訪問し、クラブの目的以外に、活動を通じて育まれていた人とのつながりや公民館活動は生活に潤いと安心を生んでいたことを誰もが実感していた。

また、活動が困難になりながらも少しでもみんなで集まろうと考え行動していたクラブもあり、自主活動が公民館の基本精神であり、ここで地域の人が育っていることが実感できた訪問となった。



（記：土井）

しゃべり場★公民館 2021 年度（令和3年度）振り返り

令和2年度から引き続きコロナの影響下での活動となった。4月の1回目のミーティング直後、緊急事態宣言の要請に伴い公民館が休館となった。6月末に解除となった直後のミーティングでは、実際に仲間と顔を合わせて対話できることをみんなで喜び合った。

コロナ感染防止として顔を合わせて集まることが制限される事態に、しゃべり場でも危機感が募った。そんな状況の中で「学びを止めない」ため、人とつながり続けるために、オンラインにも挑戦し事業を展開した。

<取り組んだこと>

○利連・活動協議会・クラブ協議会の定例会の中でしゃべり場★公民館の活動報告ができないか、また役員との懇談会を年2〜3回程度できないか検討。活動報告は動画や写真スライドを活用するなど。 →コロナで緊急事態宣言が発出されたり、病床逼迫が続く状況を鑑み実施せず。

○「公民館ってどういうところ」と聞かれた時、どのように答えるかを、ミーティングの中で考えた。

○研修等の取り組みについて、リーダー研修も考えたが、まずは公民館の意義を知ってもらう内容で実施することとなった。 →オンライン会議システム Zoom を使った取り組みとする。公民館講座「はじめての Zoom サロン」でも PR した。

（実施日時・内容）

・「Zoom でしゃべり場」…各公民館と自宅を Zoom でつなぎ、なんでもしゃべって交流
9/28（火）・11/26（金）・1/7（金）・2/18（金）いずれも 13:30〜14:30

・「公民館ってどんなところ？」10/25（月）13:00〜15:00…講師のお話とグループトーク
講師：和歌山大学教授 村田和子氏 場所：山手地区公民館（講師来館）、Zoom で浜手地区公民館・自宅

○第10回公民館大会実行委員会へは、交代で2人ずつ参加。

・事前学習会 「持続可能な未来に向けての学びと公民館」1/18（火）13:00〜15:30

講師：東京大学名誉教授 佐藤一子氏（オンライン）

コーディネーター：和歌山大学教授 村田和子氏 場所：中央公民館視聴覚室

・第10回公民館大会 2/6（日）13:00〜15:30

講師：東京大学大学院教授 牧野篤氏 場所：メイン会場中央公民館・Zoom で各館・自宅

○夜のミーティングを1/24に企画も、再びのコロナ感染拡大により中止。

○しゃべり場★REPORT No. 32 を R4.2 に発行

<まとめ>

「Zoom でしゃべり場」を実施した感想としては、「画面越しにはしゃべりにくい」という声もあったが、「リアルで集まらない時期に画面を通してでも人が話しているのを聴けて嬉しかった」という声も聞かれた。

参加者は Zoom に苦戦する人もいたが、事前に何度か公民館に来て試したりして、参加のために職員と一緒に挑戦した。話す内容は、1～2 回目は、コロナで家にいる時間が長く公民館活動等できない期間にどうしていたかなど、コロナ関連の話が多くなった。「自分で運動をしている」「家でできる趣味、手芸などを行っている」など情報交換をし、「子どもにとっては1年1年が大きいので、地域の行事がなくなっているのが辛い」「みんなでワイワイしたいができない」といった話もあった。

また「クラブの仲間で Zoom をしていて励まされた」「今回の取り組みで、利用者どうしても知らなかった人と新たにつながれた」「遠隔でも Zoom で講座を聴くことができた」など前向きな意見も聞かれた。さらに参加者からの意見で、3～4 回目には話すテーマを設定するなど工夫して実施した。

いろいろなイベントや、外出の機会が減っている中、Zoom というツールを使うことで、新たなつながりができ新しい学びが得られた。また、オンラインは公民館に来れない人にも参加の可能性を広げた面もある。しかしながらこの取り組みをしてみて、しゃべり場メンバーの中ではやはり、人と人とのつながりには、実際に顔を合わせての対話が必要だとも再確認された。

(記：小山)



10/25 公民館ってどんなところ？



11/26 Zoom でしゃべり場



2/18 Zoom でしゃべり場

「しゃべり場★公民館」とわたし ― 10年間の担当職員編 ―

このしゃべり場★公民館は、公民館を利用する市民と3公民館の担当職員が協働で作り上げてきました。人事異動等もあり、その時々で複数の職員が関わっていますが、関わる職員は話し合いの中で「事務的に対応する」のではなく、自分の気持ちを伝えたり、素の自分をさらけ出すことになります。そうしたやり取りの中で感じていたこと、自分自身の変化などをこれまでの担当職員が振り返りました。

植田 年明 (2012)

しゃべり場公民館 10年まとめにあたって みえてきたもの みえてこなかったもの

しゃべり場公民館 10年、そうなんだ、続いていたんだと言うのが最初の感想です。

「親の介護と死」とばたばた充実した10年で、自身も高齢者まっしぐらで今のしゃべり場はよく知らないのが現状かな。

どのような経緯で始まったしゃべり場か、あんまり覚えていませんが、とにかく元気な赤シャツのお姉さん（朝日さん）とよくできたふたり（桑原さんと真砂さん）に引っ張られた1年か2年？

市民の学びを邪魔しない、すごい利用者が公民館に集まっているんだということを忘れなければ職員としてやっていける最低条件だと今改めて思います。

他人の話を聞ける、関心、感動する感性が、しゃべり場が続いているのかなと思います。

とにかく元気な赤シャツさん。まずこの人がいなければしゃべり場は成立しなかったです。話を聞きだす力、会を見渡せる洞察力、とにかく明るいのです。どこにそのようなエネルギーがあるのかその源泉を探してみたいと言うのが10年にあたっての私の感想かな。

温和な緑シャツ、平和な青シャツ、燃えるような黄シャツ・・・と着飾らないしゃべり場の参加者が今もいるのだと思います。色々なシャツを着た利用者がいるのだということ、まだまだ登場していただいていないのだと思いますがこれが公民館の課題だと思います。

10年のまとめから「みえてきたもの」「みえてこなかったもの」をテーマにしてまた次に進んでください。

山内（真砂） 悦実 (2012)

当時を振り返ると、公民館使用料有料化の話が出始めていた頃で、有料化になるのを食い止めるためには、職員の声だけでなく、いろんな市民の方の声が大事と思って、活動を進めていたことを思い出します。その後、有料化の話が確定した頃には私は他課で仕事をしていたため、その時の状況は共有できていないのですが、有料化となった現在も、変わらずしゃべり場★公民館が続いていることも本当にすごいと感じています。10年の月日が経過し、当時は独身で他市在住だった私自身も2児の母となり、貝塚市民となり、公民館を利用する一市民となっています。産後で体力も低下し、夜泣きも続いたため週1～2回外に出られたら上出来…という自分の子育てであっという間な生活を送る中、しゃべり場で出会ったような先輩ママ達のすごさを痛感し、尊敬の気持ちでいっぱいです。他課も経験した今、より一層思うのは、地域のため、子どものため、公民館のため…等、周りの者のために思って活動している「人」は貝塚市にとって本当に大きな財産だと感じます。「人と人、地域をつなぐ公民館」というキャッチフレーズの公民館。そんな「人」の姿やストーリーを知れるのがしゃべり場★公民館のいい所だと感じます。発起人、語り

手の皆さん、貴重なお話をたくさんありがとうございました。

山田（桑原） 知子（2012～2013・2023）

私が担当していた頃、指定管理や有料化等近隣市町村でも公民館の運営が変化しはじめ、公民館は「一部の人しか利用していない」「余裕のある人だけが使う施設」と言われたりもしていました。そんな時、利用者（市民）の方から自分たちの利用する公民館について考えたいと声上がり、市民・職員が集まり、しゃべり場★公民館が始まりました。

取り組みの中で、たくさんの人の「私と公民館」の話を聞き、公民館での学びは個人の生活に影響を与えるにとどまらず地域へどんどん広がっていることが具体的に見えました。

講座を受けた「私」が町会の役を引き受け、町会館で交流する場・学ぶ場を作って公民館へ来ない人へも学びを届けている・・・

退職後クラブ活動で公民館に来た「私」を必要としてくれる場所があり、普段の生活では関わる事のない子育て親子の事業に協力し、人のつながりが広がっている・・・

「一部の人」がどれだけの影響力をもつのか…公民館の価値を確認する機会になり、やっぱり公民館は必要なのだと強く思いました。

メンバーも入れ替わり、またコロナ禍で活動ができなかったりしながらも、10年間毎年テーマを考え、カフェや合宿、Zoom等手段も様々に取り組んで続く事はすごいことだと思います。

こんなに真剣に公民館のことを考えてくれるしゃべり場メンバーがいる貝塚公民館。その学びが続くよう、これからも職員として尽力したいと思います。

古家 弥須子（2013～2016）

今回、しゃべり場★公民館 10 周年記念冊子寄稿にあたり、スタッフとして関わった 4 年間、公民館で過ごした 5 年間のことを振り返ってみました。

私が公民館に異動してきたのは「しゃべり場★公民館」2 年目の 2014（平成 26）年。異動してきた当初、公民館がどんな所か全く知らなかった私は、それまでとは違う市民の方（公民館利用者の方）との距離感に戸惑っていました。先輩職員から「公民館を知るにはしゃべり場の担当になるといいよ」というアドバイスをもらい、職員スタッフとして「しゃべり場★公民館」に参加。初めてのスタッフ会議で、私は利用者スタッフの方々から質問攻めにあい面食らってしまった（笑）、というのは懐かしい良い思い出です。

しゃべり場では、10 代から人生の大先輩まで、たくさんの人に出会いました。私は、ライフストーリーや公民館への思い、真っすぐに感じたことや意見を伝えてくださる参加者のみなさんの影響を大いに受け、自然と公民館・そこに集う人・関わる人の魅力にはまっていきました。しゃべり場は利用者と職員が共に企画して始まった事業。10 年の間に公民館にもいろいろな出来事がありました。今回あらためてしゃべり場★REPORT を読み返していて、「しゃべり場の落としどころをどうするか」という一文を見つけました。確かに私がいた時期にも、スタッフ間で、これからしゃべり場をどう進めていこうかと悩んでいた時期があります。そんな悩みを抱えながらも「出張しゃべり場」「しゃべり場カフェ」「公民館大会への参画」をしながら、そこで語られた話の中に次のテーマを見つけ、しゃべり場を継続してきました。

公民館（勤務）を離れた今、あらためて感じるのは、利用者も職員も、公民館を知っている人も知らない人も、“誰もが自由に語れる場があること”こそが貴重だということ。無理に落としどころ

を探したり決めなくても、そこにいる参加者がいろんな人の考えを受け入れ、思いを共有し、共に進んでいく……。それができるのが公民館であり、しゃべり場。これからもしゃべり場が続くことを願いつつ、私自身も、私を大きく変えてくれた公民館での出会いと経験を活かして、自分にできることを実践していきたいと思っています。

鈴木（藤田） 唯（2014～2016）

当時を思い返してみると、一番に思い出したのは「公民館の学びを地域へ」をテーマにしたライフヒストリーをまとめたリーフレットを作成した時のことです。公民館では地域を創る人材が育っていることが分かるものを作りたいとの意見から、素晴らしいものができあがったと思っています。当時公民館勤務2年目の私には公民館ってすごい！と思う話がたくさん聞けました。

もうひとつは、濃密な話し合いの時間だったこと。しゃべり場でやってきたことは、全てその場の話し合いから生まれてきたアイデアでした。今回、久しぶりにしゃべり場 REPORT を見返しましたが、レポートに載っている目的やその年のテーマを見ると、たくさんの話し合いの末に生まれた言葉であるのを思い出します。ざっくばらんに意見をだしあうことでしゃべり場として伝えたいことが明確化していき、伝えたい事柄を端的に言い表す言葉を探す。短い言葉のなかに濃縮された時間、思い、意見、考えが込められていること、リーフレットやしゃべり場 REPORT を見て当時の濃密な時間を思い出しました。

いま、公民館を離れて思うこと。今回、改めてしゃべり場 REPORT を読むと貝塚公民館の凄さがよく伝わってきました。やはり目に見える形で伝えるというのは大事だなと思いました。個々人の公民館での自己の成長、学びがあること。久しぶりに貝塚公民館に触れ、背筋が伸びる思いとなりました。

木藤 順子（2016～2017・2020）

思い返せば、担当職員としてしゃべり場に関わったのは2年という短い期間でした。ただ、それ以前は中央公民館で利用者として関わったこともあり、私の中ではしゃべり場メンバーと話をすることは公民館活動の延長であり、しゃべり場の目的である“公民館が公民館でありつづけるために何ができるかをみんなで考える場”という認識は自然と持つことができました。

利用者時代と一つ違うことは、「学び」ということを深く考えたことです。

公民館は社会教育施設です。そうですね。でも、社会教育とは何ですか？と聞かれたときに、職員として答える事ができなかった。生涯の学びの場と云われるけれど、学びっていったい何だろう？（…実は今も正解はわからず問い続けているのですが…）

しゃべり場を経験し、職員として講座や利用者連絡会等の団体と関わりながら、今の時点で思うことは「学び（社会教育）とは、より良い社会を創る主体として成長・発達すること」と答えるかな…。人は皆、それぞれの社会（小さな集団から大きな組織まで）に属しながら生きている。その社会の中で過ごすうちに出くわす壁（問題や悩み）に対して、いかに仲間と共に話し合い解決する道を切り拓いていけるか。その解決方法は、マニュアルや取扱説明書には決して載っていない、その時のそのメンバーたちだけのもの（方法）なのだと思います。

私が関わっていた頃のしゃべり場は、しゃべり場カフェを年に数回開催していました。クラブ員の声に耳を傾け、問題意識をもち皆で考える機会を作っていました。そしてしゃべり場（担当）を離れた今も、職員として講座や団体の中でいかに皆の意見を聞く機会を持つかを意識しています。

きつとあの時のしゃべり場カフェが柱になっていると思う。

子育て世代から高齢者まで、またクラブ運営にも仕事を離れた自身の家庭にも大なり小なりいくつか問題があって、その都度話し合える余裕を、しゃべり場を経験したからこそ得られたのだと思います。

今回、つらつらと書いてしまいましたが、5年後の自分はどうなっているでしょう。

北川 和弥 (2017～2018)

しゃべり場★公民館 10 周年おめでとうございます。10 年という長い活動を精力的に続けてこられたことは本当に大変で、すごいことだと思います。私自身もその活動に短い間ですが、関わることができて嬉しいです、自分のことのように誇らしい気持ちもあります。

公民館職員として過ごした中でも、公民館の未来について、真剣に悩み、考え、行動したのはしゃべり場★公民館が一番だと思います。メンバーの中には公民館がこのままではだめになってしまうという危機感があったと思います。人と人の交流の中で人が育ち、他者を思いやり尊重する心が育まれ、民主主義が根付く。そういった公民館本来の働きが徐々に薄れてしまっていくのではないかと、私自身も活動に参加する中でそう感じるようになりました。そしてそれを防ぐため、微力ですが力を尽くしてきたつもりです。その時の自分の熱い気持ちをこのメッセージを書いている中で思い出してきました。魅力を人に伝えることが難しいしゃべり場★公民館ですが、志を一つに、未来をよりよくするために熱く語り合える場は大人になってからはとても貴重で、しゃべり場★公民館はまさにその貴重な場所で、私を人間的に大きく育ててくれて、人間の心の持つ素晴らしさや美しさを強く感じることができました。だからこそ自分を見失わず、今も生きていけているのだと本当に感謝しています。ありがとうございます。

また、私は異動して福祉の仕事に携わるようになり、丸 4 年が過ぎました。少し公民館から離れた職員として公民館を見てみると、まず職員の公民館への関心そのものがあまりないと感じます。特に若い職員は公民館に対するイメージすらないような人が増えている気がします。業務が忙しく、業務外の内容の情報は共有されても読み飛ばしてしまいます。一日中効率的に業務をこなさ続けないと追いつかないのです。しかし、そういった公民館に無関心な職員が増えると公民館があってもなくてもよいと考える人が増えることになります。また、行政は時間とお金をどこに配分するかを選択と集中を迫られる財政状況です。その中で公民館が存続するためには、やはり情報発信が大切です。情報の洪水が起こっているこの社会で、だれかの目に留まるためには視覚的に端的に公民館の魅力と目的を伝える必要があると思います。非常に厳しい状況ですが、その中でも発信を続けているしゃべり場★公民館のメンバーは本当にすごいと思います。どうかこれからも変化を恐れず、挑戦し続け、この活動が 20 年、30 年と続くことを願っています。そして私自身も何か機会があれば一緒にがんばりたいと思います。改めて、しゃべり場★公民館 10 周年おめでとうございます！

松浪 京子 (2018～2019)

公民館の役割を学び、感じた場所

私がしゃべり場★公民館と出会ったのは、職員として山手地区公民館へ配属になった平成 30 年です。その頃の私は、公民館職員の仕事は講座や事業を企画して市民にサービスを提供する事だと考えていました。しゃべり場★公民館では「公民館の良さをもっとたくさんの人に知って欲しい」との思いで利用者、職員が一緒になって何ができるかを考えて様々な企画をしました。

特に印象に残っているのはクラブ訪問です。利用者の皆さんから公民館への思いを直接聞くことができ「社会とつながれる場所」「クラブ以外でも付き合える関係ができた」など、それぞれに“ドラマ”があり、公民館という場所がそこに集まる人を繋げ、社会教育の場となっている！職員として、その手伝いをしたいと思いました。

新型コロナウイルスの流行で社会活動が停止した時でも“公民館でのつながりが助けになった”エピソードをたくさん聞きました。

しゃべり場公民館は、公民館（＝社会教育）の価値や可能性を実際に見て感じ、学ぶことができた場所です。

今は別の部署へ異動になりましたが、私は私にできる活動を実践中です。必要な人がひとりでも多く公民館に出会うことができるよう、これからもしゃべり場★公民館が長く続いて欲しいです。

奥埜 由起子（2013～2017、2019～）

しゃべり場★公民館の10年を振り返ると、なんと8年もメンバーでいる。

「8年なら、しゃべり場のことよくわかってるよね」と言われるが、そんなことはない。何を隠そう、わかりかけてきたのは・・・ここ数年。

「わかった」ではなく「わかりかけ」と、これまたなんとも奥歯に物が挟まった表現。社会教育を知らず、学びという意識もなく、職員の異動でところてんのように決まった担当。それがはじまり。

当初、それは〇い会議だった。（〇はご自由に）なぜならメンバーは公民館が大好きなベテラン公民館利用者。「今年の担当職員です。」と自己紹介はできても、知識不足は隠せるはずもなく、意識高い系メンバー（そう見えた）と1年間どう関わっていいのか悩んだ。とはいうものの、3公民館からそれぞれ職員が出るので、他館からの職員2人の後ろに控えて、記録などの事務作業に励むふりをしながら様子をみるという作戦をたて、いざ出席。しかし、そんな作戦ですむほど甘くはなく「・・・で、あなたはどう思うの？」と詰められ・・・いや、訂正。意見を求められ、しどろもどろに発言したことを思い出す。

当時、メンバーは今よりずっと若かった。血の気が今の数倍はあった。瞬間湯沸かし器のごとく熱く語りだしたり、目標を見誤って迷走したり、大風呂敷を広げたような話しでも、根底にはいつも変わらず公民館への感謝や公民館愛があった。

いつしか職員間でもしゃべり場は「新人職員が学ぶ場所・市民との関係を築く練習の場」という実践の場と認める反面、「なにがしたいのか？」と厳しく問われ、公民館大会への参画や共催講座、クラブ訪問と手を広げていった。

私にとって、しゃべり場とは「しゃべり場カフェ」でつどいの場、「共催講座」で学ぶ場、「クラブ訪問」や毎月のミーティングでむすぶ場と、まさに市民と職員が一緒になって汗をかきながら公民館をする場所。貝塚公民館らしい場所のひとつと思っている。

そんなしゃべり場の目標のひとつは「しゃべり場10周年」で祝辞と激励を頂いた堀内先生をさらに10年後の「しゃべり場20周年」で胸を張って迎えることだ。

小山 智子（2020～）

2021年度、貝塚市立浜手地区公民館職員になり、しゃべり場★公民館の担当になった。初めはわからないなりに参加し、ミーティングでメンバーの話を聞いたり、クラブ訪問でクラブに参加し

ている人の話を聞いたりし、貝塚公民館で活動する人たちの思いに触れてきた。

しゃべり場では、職員と利用者の立場の違いはあっても、同じ公民館の仲間として一緒に活動することができ、継続して4年目になる。みんなの話を聞く中で刺激も受け、職員として私も頑張りたいという原動力にもなっている。

ミーティングでは利用者、職員の思いを知ることができ、さらにどうすればその思いを伝えていくことができるか、もっと公民館を盛り上げることができるかなどを考え話し合い、みんなで実際にクラブ訪問、講座などとして形にしていけることができ、やりがいを感じている。

特に昨年度の10周年記念講座では、いろいろな立場で公民館を利用する人たちが交流して経験を共有し、公民館を守って行きたいというそれぞれの熱い思いを感じることができた。この思いのエネルギーをもっと広げていき、次の10年へとつなげていきたい。

要 光志朗（2022～）

公民館。そう聞いて思い浮かぶのは、期日前投票所になること、様々な「講座」があること…

あれから1年と少し、将棋倶楽部・ノルディックウォーキング・エクササイズ・筆ペン講座・ロビーコンサート・水間末廣座…いろんなジャンルで講座に関わり、これまでの人生で知らなかった世界に触れることができた。普段の生活では出会うことのない高齢の方や遊びに来る東山小学校の児童とも知り合いになれた。また公民館まつりでは、天候に恵まれ多くの人に楽しんでもらえたかなと思う。

そして、しゃべり場。とにかく熱い。メンバーそれぞれの熱量を嫌になるくらい感じた。でもそれは、公民館が果たしてきた役割が大きいことの裏返しだと心から思う。それほどにまで結束できることは今の僕からすればうらやましくさえもある。

しかし、山手地区公民館ができた30年前、またここ十数年前と比べても世の中は目まぐるしいほどに変化した。最も大きなものはやはり、ネットの蔓延だと思う。公民館設立当初とは違い、自分の興味関心はネットから広げ、満たすことができる。人生における悩みや疑問もネットに聞けば、必ずと言っていいほど解決の糸口が見つかる。音楽・映画・漫画・語学教室などのコンテンツが際限なくあふれている社会において、公民館に足を運び、新しい人と出会い、自分の学びを深めようという気が起きないことは容易に想像できる。無料または低価格で、自宅で、顔を見ずとも匿名で参加でき、自分の興味に対してより直接的に、深く、個人個人のスピードでアプローチできる環境が整っているのである。学びや人生経験の場という側面で公民館を後世に残していこうとするのは時代錯誤も甚だしいと思う。

今、考える公民館の役割とは、この貝塚市山手地区に暮らしている共通項のみを考慮して、生活面や防災面をもっとバージョンアップしていくことだと思う。そして、公民館を利用していない人も含めてみんなで考える場であるならば、その人たちの考えを知る努力も不可欠である。これまで公民館業務と考えていなかったことでも、市民の生活において困っていることや、あればいいなと思うことを知れば、公民館で新たにできるかもしれない。新たな公民館を模索しなければ廃止は必至である。

そしてしゃべり場 2.0 へ！ これからの 10 年を見据えて今から取り組むこと

本文中にもあるように公民館の有料化問題に端を発し、しゃべり場は始まった。その時に思ったこと。ただひたすらに「公民館が有料化の危機ですよ！」と声高に叫んだところで誰も聞いてくれないだろう。人が人の話に耳を傾けるのはそこに信頼関係がある時。まずは公民館を利用する者どうしが知り合うところから始めよう。

立ち上げ時尽力してくださった職員植田さんのアドバイス。

新年度が始まる前に次年度の活動計画を立てること

活動の記録を残すこと

担当職員は異動等で変わっても、この 2 点はしっかり引き継いできてくれた。これも 10 年間続けてこれた一因に間違いない。

さて 10 年間、つながりづくりに注力して活動を続けた結果、ここまでこの冊子を読んでいただいております。おわりのとおり、しゃべり場メンバーと利用者、また利用者どうしのつながりもたくさんできました。

この成果をもってこの先 10 年間の活動をどうしていくか、メンバーでいつものごとく熱い議論を交わした。時に話が脱線する中、「あと 15 分！」「あと 5 分！」とメンバーのお尻を叩く担当職員 O さん。そのおかげで次の 10 年に向けて活動テーマが定まった。

「しゃべり場★公民館」20 周年に向けての活動テーマ

公民館の価値を広める。高める

～人のつながりは財産、命をつなぐ～

10 年間で培ったつながりを広げる。活動をつなげて新しいものを作る役割を担う

公民館の役割や公設公営である意味などを学びという手段で伝えていく

公民館を利用したことのない市民にも「公民館があつてよかった」と思えるようなしかけを考える

この 10 年間だけでも社会情勢は刻々と変わっている。そんな中において公民館も柔軟に変化していくことも必要だろう。けれど絶対に変わらないものもある。それは

人は人とのつながり・交わりの中で育つ

人は人との交流なくしては生きていけない。デジタルが発達し、どんどん便利になっていく。だからこそ顔と顔を見合わせて話をする場をこれからも大事にしていきたい。その場を作るのが公民館の役割のひとつだと考える。

最後になりますが、この記念誌、担当職員さんの尽力でなんとか形になりました。また今までの担当職員さんが寄せてくださったメッセージにとっても励まされました。本当にありがとうございました。

そしてなにより運営メンバーの皆さん、慣れない執筆活動、本当にお疲れ様でした！ これからも共に学び、歩んでいきましょう！ （記：しゃべり場★公民館メンバー【発起人】朝日 陽子）

資料

しゃべり場★公民館 10年のあしあと



公民館が市民にとって大切な場所である一方、様々な公民館の危機(指定管理方式、有料化、貸館だけの公民館…)を利用者・職員共に感じていた。公民館の在り方、あるべき姿とは何か、利用者と職員、市民が同じ立場で話し合う場として誕生したのが、この「しゃべり場★公民館」である。

年度	取り組み・(「話し合いテーマ」)	貝塚公民館の主な出来事	活動 (回) / 会議 (回)	REP ORT (No.)	メンバー (人)
H24 2012	・「公民館との出会い」「私にとっての公民館」「使用料有料化について」	・三館連続講座 「新しい時代に公民館が求められるもの」(前年度3月) ・三館連携文化事業終了	11 / 8	1- 6	6
H25 2013	・ボランティア交流会(中央、浜手、山手) ・「文化の力で立ち上がれ！(戦後)復興の願いが生んだ公民館」(貝塚商工会議所会頭講演)、「若者の活動と公民館」 ・枚方公民館見学、勉強会 ・出張しゃべり場 山手バンド連絡会、中央講座「ホッとワーク」	・第2回公民館大会(貝塚公民館60周年事業の一環) ・大阪府公民館振興協議会解散 ・大阪府公民館・関連施設連絡会(府公連)結成	6 / 8	7- 10	11
H26 2014	・公民館利用者のライフストーリーの聞き取り(個人6人、団体2組) ・リーフレット「公民館の学びを地域へ」作成、貝塚公民館大会で配布 ・職員研修で、しゃべり場メンバーとしゃべり場★公民館を開催	・社会教育施設における受益者負担の見直し (H23～27 貝塚新生プラン) ・第62回近畿公民館大会が貝塚市で開催	12 / 13	11- 19	12



H27 2015	・「公民館を語ろう」「有料化を考える」「地域活動ってどんなの？」 「いま話しておこう、役員のこと」 「公民館の必要性を学び、発信する」 ・阪南市の公民館利用者を招き、公民館の様子を聞き取り ・出張しゃべり場「三館利用者連絡会」 ・リーフレット作成、貝塚公民館大会で配布 ・貝塚公民館大会にて、活動報告を掲示	・貝塚公民館一部有料化開始(10月) ・「1年の取り組み」作成開始 ・エレベーター設置(浜) ・三館が連携した20～30代女子向け講座開催※1	6 / 14	20- 23	13
H28 2016	・しゃべり場★公民館の目的を再確認 目的「公民館が公民館であり続ける為に、何ができるかをみんな(利用者、利用していない人、職員)で考える場」 ・しゃべり場カフェ 山手活動協議会役員会、山手活動協議会定例会、中央ロビー、浜手ロビー	・三館が連携した20～30代女子向け講座開催※1 	4 / 6	24- 25	12
H29 2017	・しゃべり場カフェ 山手、浜手、中央のロビー (話題は、公民館大会で出された意見・課題) ・あそび隊、貝塚プレーパーク実行委員会との交流 ・壁新聞を作成し、公民館大会で掲示 ・活動をしゃべり場カフェからクラブ訪問へ移行	・「公民館タイムズ」発行終了	4 / 6	26	11
H30 2018	・映画会「映画を観て公民館の歴史を知ろう！」(公会堂時代の映像) ・学習会開催(公民館大会のプレ大会として) ・クラブ訪問6回(中央：大人のHIPHOP チェケラッシュ、ガラクタクラブ、水墨画、おやじのシンプルキッチン、浜手：サラダボール、山手：陶芸(夜)) 「私にとって、私たちにとって、みんなにとって、公民館は〇〇です。そのために公民館をもっと〇〇です。」	・「公民館総合保障制度」加入 ・「公民館タイムズ」にかわり「広報かいづか」の紙面にて、公民館の情報発信が開始(毎月) 	9 / 12	27	12

R1 2019	・しゃべり場発信のリーダー研修会 中央公民館利用者団体代表者会議、浜手地区公民館利用者団体代表者会議 ・公民館大会出演予定だったパネラーとの話し合い ・しゃべり場合宿 大阪府立少年自然の家（有志メンバーのみ） ・クラブ訪問 3 回（中央：木曜書道、浜手：陶芸こねこね、山手：水墨画）	・幼稚園等を利用する 3～5 歳の子どもの利用無償化により、公民館の親子利用が減少 ○クラブ・団体に活動自粛要請 ○18 歳以下利用不可に（3 月） ○公民館大会中止 ○公民館まつり中止（中）	5 / 10	28- 30	13
R2 2020	・コロナの影響により、7 月から活動再開 ・クラブ訪問 8 回（中央：ホロホロウクレレ、彫金クラブ、人形劇あひる、貝塚ハーモニカクラブ、浜手：川柳、囲碁、山手：男のヨガ、金曜ストレッチ）	・公民館使用料金別表 2 の見直し※2 ・公民館大会オンライン開催 ・防災倉庫設置（浜・山） ○休館（4/7～5/15） ○公民館まつり中止（三館）	8 / 8	31	14
R3 2021	・Zoom でしゃべり場 4 回  ・和歌山大学教授村田和子氏による共催講座「公民館ってどんなところ？」	○休館（4/25～6/20） ○公民館まつり中止（中） ○公民館まつり規模縮小（浜・山） ・公民館大会オンライン開催	4 / 9	32	13
R4 2022	・共催講座 4 回（第 2 回中止） ・しゃべり場★公民館 10 周年のまとめ冊子作成	・コロナ感染対策の継続 ・公民館まつり開催（屋内のみ）	— / 13	—	16

※1 貝塚まち・ひと・しごと創生総合戦略「女性が輝き、子どもが生き生きと育つまち」に沿った対象講座

※2 社会教育活動に準じた活動であれば別表 2 の金額。（利用対象の範囲は大阪府高石市以南）

○…新型コロナウイルス感染防止対策の影響によるもの

公民館に集う皆さんへ

公民館があったから
私は人生救われた！

「しゃべり場★公民館」でしゃべりましょう！

公民館にいけば
誰かに会える！
話ができる！

「あってよかった、公民館！」を
みんなで語ろう！

日時 2012年 6 月 26 日(火)

午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分

場所 中央公民館 講座室2

- * 事前お申し込みは不要です。当日直接お越しください。
- * お問い合わせは各公民館へ。

中央公民館	4 3 3 - 7 2 2 2
浜手地区公民館	4 3 1 - 0 9 2 6
山手地区公民館	4 4 6 - 0 0 9 0



さる3月12日・19日・26日と3週連続で、中央・山手・浜手の各公民館で連続講座が開催されました。3つの講座とも聴かれた方もたくさんいらっしゃると思います。

私は残念ながら、2つの講座しか出席できなかったのですが、これらの講座を聴いて、公民館について思うこと、感じるものがたくさんありました。きっと受講された皆さんも同じ気持ちだと思います。そんな「思うこと」「感じること」を、出し合う機会が欲しい！と思い、公民館職員に相談させていただいたところ、趣旨に賛同していただきました。そして、各館を拠点に活動する団体の代表と3館の職員が発起人となり、「しゃべり場★公民館」を開催することになりました。これをきっかけに、公民館の必要性を感じる者どうしがよりつながりを深めるきっかけにもなれば、とも思っています。

もちろん講座を受講していない方の参加也大歓迎です。ぜひたくさんの方のご参加をお待ちしております。

「しゃべり場★公民館」発起人代表 朝日 陽子(貝塚子育てネットワークの会)

裏面もご覧ください！

「しゃべり場★公民館」の開催に至った経緯

3 月に開催された 3 館連続講座を聴いて、公民館でのいつもの活動をこれからどうしていくかを、もっと具体的に考えていく必要がある。それは、職員任せにするのではなく、私たち利用者も一緒に考えなければいけない、と感じました。利用者、職員の立場関係なく、「公民館の必要性を感じる者」が集い、『公民館』を語るところから始めよう！そしてその場を「しゃべり場★公民館」と名づけました。



発起人 朝日 陽子（貝塚子育てネットワークの会）
植田 年明（中央公民館職員）
秋本 道代（浜手地区公民館利用者連絡会）
桑原 知子（浜手地区公民館職員）
天野 光代（貝塚ファミリー劇場）
真砂 悦実（山手地区公民館職員）

3 館連続講座を聴いて…

講演の中で一番心に残ったこと、驚いたこと、納得したこと

- きちんとした食の教育も人権としてとらえる。人権＝固い＝わかりにくいと思っていたが今日の話を聞いて、自分のこととして考えていくんだ…。そう思うとわかりやすく、人権が身近に感じられた。今日の講座が「よかったです」…で終わらないように公民館と市民で何ができるか？（中央）
- 人権文化という言葉が新鮮でした。多様性の時代にすべての違いを個性として認めあえる社会になれば本当に素晴らしいと思います。自分に自信が持てました。（中央）
- 公民館職員と市民は育て育ち合うこと大事だということ（山手）
- 公民館は住民にとって「私の大学」。自分の人生の中でずっと学んでいける場というお話が印象に残りました。本当にそう思います。（山手）
- 公民館活動が個人の成果を追求していくのではなく、自分自身の活動が外から見ておもしろそうだ、素敵だと思わせるような活動を意識していくことが必要➡人と人のつながりの輪づくりになって行くのかな。（浜手）

講演の中で、活用できそうだと思う事

- みんなが集まれば、何事も少しずつでも解決できるのではないかと。（山手）
- 貝塚の公民館はとってもいいんだよと、改めて認識できたし、人にも伝えていきたい。（山手）
- 職員と市民とのかかわり方。意識の向上のために（してあげるのではなく、何かできますかの立場）（浜手）
- 公民館を利用している市民のひとりとして利用していない市民の方々にも公民館が取組んでることなど伝えていければ…と思います。（浜手）

講演の自由な感想

- 講座を聞いてそれで終わりではなく、今後この講座をふまえて市民と公民館で一緒になにができるかを考えていきたいですね。（浜手）
- 公民館のあり方なんて考えたことがなかったのですが、この講座を受けて自分たちも考えて良いんだと思いました。（浜手）



第4回 11/9「地域活動ってどんなの？」

「地域活動ってどんなの？」をテーマに積極的に地域へ出かけ、人々といろんなふれあいをしているクラブ・団体の人達の話の聞きました。そこで見えてきたことは、皆さん「地域に出たい、役に立ちたい」の思いが強いことです。保育所や幼稚園・小学校・施設・町会へ依頼があれば基本的に断らずにどこへでも出かけて、異世代間交流や高齢者・障がいのある人々との交流を、自分達も楽しみ相手にも楽しんでもらう事を念頭に、活動されている様子が見えました。

音楽関係の人達は、訪問先の皆さんに自分達の演奏で歌い踊ってもらい、その時の皆さんの楽しそうな姿を見て、「私達も頑張ろう、また来たい」と思う事が多いとの感想が複数ありました。また、子どもを対象に出かけている人達は、「子ども達の笑顔と元気な姿を見て逆に自分達も元気になる」との話がありました。

一方で部員数が減り活動が出来にくいクラブや、講師の許可が必要なクラブ、何回も行っていると新しい出し物を考える辛さ、地域に出たいけど方法が分からないなどの悩みや問題点がある事もわかりました。

**それぞれの学びを地域へ
そして自分達も元気に！**

詳しくは
「しゃべり場☆レポート
No.22」

第1回 4/24「公民館

14年前に使用料一部有料化を
館利用者の中西智恵子さんに、当
話してもらいました。「市内三館の
者の中でも意見はさまざまだった
なり、夜は“しーん”としている
営困難になって無くなったクラブ
手もなく、“講師の教室化”して
いるクラブもある。」などの話を
聞き、貝塚公民館の将来が不安に
なってきました。

第2回 5/15「有料

60年の歴史ある貝塚において
年明さんに率直な思いを聞きまし
いう印象。一部でも有料化は大変
へ出ると違った考え・見方がある
者自身が気づいていないのでは？
負担があっても、楽しい・やりた
ていくことが大事。」と大切な話を
チャンスに！有料化をきっかけに真
機会をつくっていかれたらと思いま
詳しくは「しゃべ

第5回 12/8「いま話しておこう、役員のこと」

主に現役(OB)役員・クラブ委員・グループの代表者が
集まって思いを出し合いました。「役員になってからクラブ
は自主運営でカルチャーセンターとは違うということがわ
かった」「いろんなことが委員や役員任せで、クラブ内での
理解や協力が無いのが残念」「会議が多くてしんどい」「い
ろんな人と知り会えたし勉強になった」「1つ会議に出ると
1つ得るものがある」「“役員”“委員”と言うと反射的に拒
否されるのを何とかしたい」「定例会が報告だけの場になっ
ている。意見を出しあったり、困っていることを拾い上げ
て一緒に考えたりする場が定例会じゃないのかな？」など
の意見が出ました。また、中央・浜手・山手の3つの公民
館の運営方法の良いところを出し合って、今後の協議会活
動に活かせたらいいなあという話も出ました。協力し合う
ことで役員や委員の負担を減らして、誰でも役員や委員が
できるようにしたいですね。

詳しくは「しゃべり場☆
レポート No.23」

**自分1人じゃない、
みんなでやる！**

第3回 7/14「出張し ～三館

三館利用者連絡会にて出張し
民館使用料一部負担についてどう
問いかけに対し、「これぐらいなら
少ないクラブでは負担が大変とい
話を聞きました。現状は負担がな
「いつか自分たちにもその時が来
る。」との話でした。

**思いは
いろいろ**

役員の中でも
度差はあり、ま
ブ員はさほど負
状だと感しまし

公民館を利用する時、クラブは
員になったりする、という認識か
し、いま利用者も高齢化してきて
ことを負担に感じる人も多いのか

詳しくは「しゃべ

公民館を語ろう」

化を体験した阪南市西島取公民館に、当時と現在の公民館の状況を三館の事情が違いうえに、利用違った。現在は地域の利用が無くしている。人数の少ないクラブは運営クラブもある。クラブ役員のなりして話を不安に

**パワーアップ！
公民館**

有料化を考える」

いては元中央公民館館長の植田きました。「『いよいよ来たか』とは大変なこと。公民館から一歩外がある。公民館活動の中身を利用では？市民の学習の機会が必要。やりたいと思える公民館活動にしなければならぬ話を聞きました。ピンチをチャンスに真のつながりや意識向上の思いでした。

しゃべり場☆レポート No.20」

長しゃべり場

三館利用者連絡会～」

長しゃべり場を行いました。「公民館はどう思っていますか？」との問いに「いいな・・・」「部員数が減っているところもある。」という声が出た。子供も対象のクラブは、来年度は来ないのではという危惧があ

でも公民館に対する思いに温かい、ましてや、一人一人のクラブが負担に思っていないのが現実でした。

クラブは自主運営なので委員や役員の認識が薄いと思いました。しかしてきており、実際役員に当たる人かもしれません。

しゃべり場☆レポート No.21」

公民館の必要性を学び、発信する



「しゃべり場★公民館」今年度のテーマは「公民館の必要性を学び、発信する」として、さまざまな方の体験、思い、意見をお話いただく場として開催してきました。

そこで見てきたもの。それは「人と人がつながることで、より豊かな人生になる」ということ。学ぶだけならカルチャーセンターでも OK。集うこともできるかもしれません。しかし、学び、交わり、そしてつながることは公民館だからこそできるのだと思います。

役員や委員という煩わしさや負担感。でもその経験者のほとんどが「やってよかった！」とおっしゃっていました。また、地域に出かけている方々からは「でかけることで元気になる！」との声が多くありました。一方で役員や委員を引き受けることの大変さや、地域に出かけることへの難しさも多く聴かれました。

1 年間、しゃべり場の活動を重ねる中で課題や来年度に向けての目的も見えてきました。「しゃべり場は敷居が高い」という貴重なご意見から参加しやすいしゃべり場、誰でもしゃべりたい時にしゃべれる環境作りに来年度は特に力を入れていきたいと思っています。

2015 年度しゃべり場★公民館から発信！ 公民館活動をより楽しく、充実させる方法

その1 運営上の良いところをシェアできる場所を作る！

中央・浜手・山手の3つの公民館のクラブ協議会・利用者連絡会の運営方法の良いところを出し合って、今後の協議会活動に活かしていく。また、地域に出かけることなど、ひとつのクラブ・団体では難しいことでも、複数のクラブが集まればできることもある。そのコーディネートができる場としても機能させる。

その2 役員・委員の役目を一人で担わない体制を作る！

役員・委員が役目を一人で担うのではなく、「少しずつでもできることをみんなで行なう」という、クラブ員全員で協力しあえる体制を作る。そのために、公民館で活動するということ、協議会の存在、クラブが協議会に所属していることの意味、それらを利用者みんなに理解してもらう。

地域で輝く公民館 「ほかで」

校区别クラブ・グループ活動回数

市外 32 回

《中央公民館所属》

- ☆ 田尻町関西国際センター
(貝塚ハーモニカクラブ)
- ☆ 高石公民館 (人形劇あひる)
- ☆ 泉大津市条南保育所 (あひる)
- ☆ 岸和田市八木保育園 (あひる)
- ☆ 岸和田市山直市民センター (あひる)
- ☆ 熊取町民会館ホール
(HIPHOP チェケラッシュ) (ハワイアンフラ) (オカリナふぁみりあ)
- ☆ 豊中市ひかり保育園 (あひる)
- ☆ 泉大津市上条保育所 (あひる)
- 《浜手地区公民館所属》
- ☆ デイサービスつばき・3回
(ハーモニカ・アンサンブル・アンダンテ)
- ☆ 岸和田市自泉会館
(朗読ぐる〜ぷサルビア)
- ☆ 泉佐野市北部市民交流センター
(朗読ぐる〜ぷサルビア)
- ☆ 岸和田市大宮青少年会館
(朗読ぐる〜ぷサルビア)
- ☆ 泉佐野市長坂小 (サルビア)
- ☆ 岸和田市山直北小 (サルビア)
- ☆ 岸和田市八木南小 (サルビア)
- ☆ 泉佐野市佐野台小 (サルビア)
- ☆ 岸和田市旭小 (サルビア)
- ☆ 岸和田市太田小 (サルビア)
- ☆ 岸和田市天神山小 (サルビア)
- ☆ 岸和田市東光小 (サルビア)
- 《山手地区公民館所属》
- ☆ 高石市介護施設喋喋
(沖縄三線あかばな)
- ☆ 紀の川市桃山町調月学童教室
(オルオルウクレレ)
- ☆ 岸和田市蛸地藏天性寺
(沖縄三線あかばな) 2 回
- ☆ 公設民営ももやま放課後児童クラブ (オルオルウクレレ)
- ☆ 岸和田市府営額原住宅
(沖縄三線あかばな)
- ☆ 泉南市山田家住宅 (琴和会)
- ☆ 岸和田市上松町ふれあいの会
(沖縄三線あかばな)

津田校区 2 回

《中央公民館所属》

- ☆ 津田南町いきいきサロン
(ハワイアンフラ)
- ☆ 津田小なかよしホーム (遊び隊)

二色校区 7 回

《中央公民館所属》

- ☆ 二色小なかよしホーム (遊び隊)
- ☆ おおぞら保育園 (人形劇あひる)
- ☆ 浜手地区公民館 (遊び隊)
- 《浜手地区公民館所属》
- ☆ コスタミラ大ホール
(ハーモニカ・アンサンブル・アンダンテ)
- ☆ 第 5 中学校 (民踊・舞踊)

西校区 17 回

《中央公民館所属》

- ☆ 二色の浜公園 (遊び隊)
- ☆ ふれあい二色ホーム (遊び隊)
- ☆ ふれあい二色ホーム
(貝塚ハーモニカクラブ)
- ☆ 西小なかよしホーム (遊び隊)
- ☆ リレーフォーライフ (遊び隊)
- ☆ 西幼稚園 (遊び隊)
- ☆ いぶき作業所 (ハワイアンフラ)
- ☆ 西小学校 (遊び隊)
- ☆ 西小学校 (人形劇あひる)
- ☆ ライフコート貝塚加神 (マジック)
- ☆ 二色東和苑 (遊び隊)
- 《浜手地区公民館所属》
- ☆ 高齢者施設ミモザ (アンダンテ)
- ☆ 畠中ロコモフレンズ (アンダンテ)
- ☆ いぶき作業所 (太極拳) 2 回
- 《山手地区公民館所属》
- ☆ 脇浜町会館 (貝塚笑助隊)
- ☆ 畠中ロコモ自治会 (貝塚笑助隊)

あひる：人形劇あひる

ハーモニカ：貝塚ハーモニカクラブ

サルビア：朗読ぐる〜ぷサルビア

アンダンテ：ハーモニカ・アンサンブル・アンダンテ

東校区 1 回

《中央公民館所属》

- ☆ ニチケアセンター
(遊び隊) (オカリナ)
- ☆ 東小なかよしホーム
- ☆ まーぶる保育園
- ☆ 子育て支援センター
(オカリナふぁみりあ)
- ☆ 貝塚歴史展示館
(遊び隊) (貝塚ハーモニカ)
- ☆ ハート交流館 (遊び隊)
- 《浜手地区公民館所属》
- ☆ ニチケアセンター
(ハーモニカ・アンサンブル・アンダンテ)

北校区 1 回

《中央公民館所属》

- ☆ 公民館まつり・貝塚
- ☆ 北小学校 (ハワイアンフラ)
- ☆ 北小なかよしホーム
- ☆ デイサービス貝塚駅前
(オカリナふぁみりあ)
- ☆ 南上町いきいきサロン
- ☆ 中央公民館おやこ
- ☆ 青少年センター
(熟年コーラス)
- ☆ コスモシアター
- ☆ ファミリーホール
- ☆ 海塚小地域ネット
- 《山手地区公民館所属》
- ☆ 北小なかよしホーム
(オルオルウクレレ)
- ☆ 貝塚ファミリー劇場
(沖縄三線あかばな)
- ☆ 北小学校 (オルオルウクレレ)



でもがんばっているよ！」

収 「2014 年度貝塚公民館のあゆみ」より

区 13 回

《中央公民館所属》
☆ センター堀
オカリナふぁみりあ
しホーム（遊び隊）
育園（あひる）2 回
センター
ふぁみりあ
示館
貝塚ハーモニカクラブ
館（遊び隊）
民館所属
センター貝塚 3 回
サングル・アンダンテ

区 14 回

《中央公民館所属》
☆ り・貝っ子フェスタ（遊び隊）
（ハワイアンフラ）
しホーム（遊び隊）2 回
貝塚駅前
ふぁみりあ
いきサロン（ハワイアンフラ）
おやこ教室（遊び隊）
センター
ラス銀の貝
アター（遊び隊）
サ・センター（あひる）
ネット（カキふぁみりあ）
民館所属
しホーム
ウクレレ）2 回
リー劇場
あかばな）
（オルオルウクレレ）

木島校区 13 回

《中央公民館所属》
☆ 河崎病院デパート 2 回（ハーモニカ）
☆ 木島病院リハビリ楽寿苑（ハーモニカ）
☆ 木島小なかよしホーム（遊び隊）2 回
☆ 貝塚誠心園（カキふぁみりあ）
☆ 貝塚誠心園（絵手紙クラブ）
☆ 木島小なかよしホーム（マジック）
《山手地区公民館所属》
☆ 水間観音駅まち愛コンサート
（童謡をうたおう）（オルオルウクレレ）
（沖縄三線あかばな）（津軽三味線）
☆ 三ツ松妙順寺（沖縄三線あかばな）

中央校区 8 回

《中央公民館所属》
☆ 道教寺保育園（遊び隊）2 回
☆ デイサービス・フィット
（ハワイアンフラ）
☆ 関西自動車学院（遊び隊）
☆ 道教寺パルティ保育園（あひる）
《浜手地区公民館所属》
☆ 道教寺パルティ保育園
（人形劇きしゃぼっぽ）
《山手地区公民館所属》
☆ 中央団地自治会（津軽三味線）
☆ 中央小学校仲よしホーム（ことぶき）

南校区 12 回

《中央公民館所属》
☆ ブレイパーク（遊び隊）4 回
☆ 窪田町民会館
（大正琴コスモスサークル）
☆ 南小なかよしホーム（遊び隊）
☆ 南幼稚園（遊び隊）
《浜手地区公民館所属》
☆ 有料老人ホームめぐみ苑
（ハーモニカ・アンサンブル・アンダンテ）
☆ 窪田町会館（アンダンテ）
《山手地区公民館所属》
☆ 窪田町会（沖縄三線あかばな）
☆ せんごくの里
（女声コーラスシフォン）

葛城校区 4 回

《中央公民館所属》
☆ 葛城小なかよしホーム（遊び隊）
☆ 農業庭園たわわ（ハーモニカ）
☆ 葛城幼稚園（遊び隊）
《山手地区公民館所属》
☆ 蕎原町会（ことぶき）

東山校区 12 回

《中央公民館所属》
☆ 東山小なかよしホーム（遊び隊）
☆ 東山小緑の会（遊び隊）
☆ 東山自治会館（遊び隊）
☆ 山手地区公民館（あひる）
☆ 東山小なかよしホーム（あひる）
《浜手地区公民館所属》
☆ ケアハウスりぶりー
（アンダンテ）4 回
《山手地区公民館所属》
☆ 東山町会（貝塚笑助隊）
☆ 東山小なかよしホーム（ことぶき）
☆ 東山小なかよしホーム
（貝塚笑助隊）

永寿校区 11 回

《中央公民館所属》
☆ ほっこりの里（遊び隊）5 回
☆ 永寿小学校（遊び隊）2 回
《浜手地区公民館所属》
☆ 三ツ松西之町
（人形劇きしゃぼっぽ）
《山手地区公民館所属》
☆ 三ツ松団地南自治会
（ことぶき）（貝塚笑助隊）
☆ 三松団地第 2 住宅
（沖縄三線あかばな）
☆ 永寿小学校なかよしホーム
（ことぶき）



人形劇あひる（中央公民館クラブ）

自分たちで作った人形を抱えて市内のみならず、市外・府外へも飛び出していく「人形劇あひる」の皆さん。その原動力の源はもちろん子どもたちの笑顔です。公演にかかせない「蹴込み（けこみ）」を作ってくれたのは初代は自助具グループ、二代目は木工クラブと、いずれも公民館で知り合ったグループの人たちでした。

詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.15」



遊び隊（中央公民館ボランティアグループ）

保育所、幼稚園、小学校、介護施設など地域へ出かけ、おもちゃ作りを通じて人とのふれあいや繋がりを大切に活動しています。子ども達が、作った玩具で一生懸命遊んでくれて、大事に持ち帰る姿がなんともいえません！外に出て隊員と一緒に作業をし、子ども達と触れ合い心身ともに健康が保たれていると実感しています。遊び隊の活動はカッコよく言えば「社会貢献」「地域への還元」になっているのかな。

詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.12」



石原隆則さん（遊び隊隊長など）

定年後、妻から「公民館でも行きなさい」と言われ公民館デビュー。いくつかの講座を受ける内に仲間もでき、今は5つの活動に参加。そして公民館での学びを糧に地域で老人会を立ち上げた。私にとって公民館は、新しい自分を見出してもらった所であり、公民館が自分の居場所となった。

詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.17」



藤谷ゆき子さん（貝塚学習グループ連絡会代表）

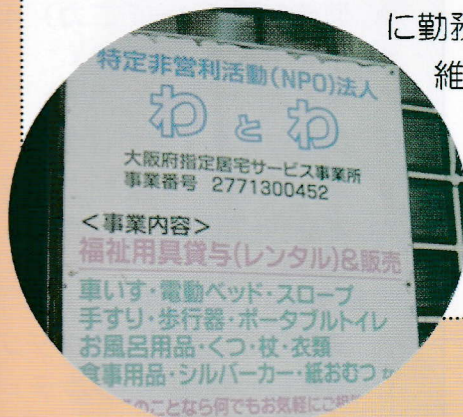
始まりはおや子教室。保育ボランティアを考える会の運営を経て学習グループ連絡会代表に。親との同居、介護と看取り、子育てに加え、映画会を20年続けるなど地道に幅広く活動してきた。今は福祉用具店「わとわ」

に勤務し高齢者の健康

維持と居場所作り

に取り組んでいる。

詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.18」



佐々木裕子さん（民生委員など）

娘の誕生を機に子育てサークルへ入会。その後ファミリー劇場の役員経験を経て、現在民生委員として、地域のふれあい喫茶の運営に携わっている。一緒に運営する仲間の多くは公民館で一緒に活動してきたメンバーでもある。詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.14」



溝口雅克さん（公民館クラブ部長など）

定年後の人生をどうしようかと思い、公民館の講座に参加し、その後クラブの立ち上げ、代表を引き受け、他のクラブにも入会し、多忙な毎日を送っている。

公民館だけの活動でなく、地域へ出かけ、ボランティア活動にもやりがいを見つけている。詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.17」



松岡美代子さん（民生委員など）

おもしろくてのめりこんだ公民館活動。様々な活動を経て地域へ。地域には公民館で学んだ人、公民館とは関係なく地道に地域の為に働いている人がいる。公民館で身に付けたことは、自分の周りの人の生きていく力となる。

それを伝えていきたい。

詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.13」



大谷美代子さん（子育てネットワーク・先輩ママ）
生まれ育った貝塚だったが結婚後離れ、戻ってきた時は友だちもなく一人で子育てをしていた。スーパーで見たサークルメンバー募集のポスターが公民館との出会いだった。その後、子育てネット、ファミリー劇場、学習グループ連絡会の活動を経て、地域ではPTA役員、青少年指導員などを引き受けている。詳しくは「しゃべり場☆レポートNo.16」



「しゃべり場★公民館」

2014 年度活動のまとめ

公民館の学びを地域へ



「しゃべり場★公民館」は、3 公民館での連続講座後、「これからの公民館について、利用者も職員も一緒に考えていこう！」と 2012 年度から始まりました。

2014 年度は、公民館の学びを地域へ発信している個人や団体にスポットをあて、お話をうかがってきました。

「公民館で活動している人は元気な人」という話をよく耳にしますが、一人ひとりのライフヒストリーにスポットを当てると、実は公民館に行くことで元気になり、さらに地域に発信していくようになっていったことがわかりました。

このたび 2014 年度の活動の成果として、リーフレットを作成し、発行することになりました。公民館で地域を創る人材が育っていることがわかるものにしました。興味をもたれましたら、ぜひ「しゃべり場☆レポート」もお読みください。

編集 「しゃべり場★公民館」運営委員会
発行 2015 年 2 月

中央：遊び隊 39 回、人形劇あひる 13 回、貝塚ハーモニカクラブ 9 回、ハワイアンフラ 4 回、マジッククラブ 4 回、
 浜手：ハーモニカアンサンブル「アンダンテ」18 回、朗読ぐるーぷサルビア 10 回、民踊・舞踊 3 回、茶道クラブ 2 回
 山手：ことぶきクラブ 14 回、沖縄三線あかばな 5 回、津軽三味線 2 回、オルオルウクレレ 2 回、貝塚笑助隊 2 回、よ

公民館の 学びを地域へ

市外 28 回

《中央公民館所属》

- ☆ 岸和田市中央公園（遊び隊）
- ☆ 岸和田市浪切ホール（リボン）
- ☆ 兵庫県三田市立郷の音ホール（ハーモニカ）
- ☆ 岸和田市蜻蛉池公園（遊び隊）
- ☆ 岸和田市土生チヤアサキ（あひる）
- ☆ 岸和田市青少年センター（あひる）
- ☆ 和泉市立図書館（遊び隊）
- ☆ 泉大津市条南保育所（あひる）
- ☆ 岸和田市山直市民センター（あひる）
- ☆ 岸和田市作才町会館（あひる）
- ☆ 泉大津市上条保育所（あひる）

《浜手地区公民館所属》

- ☆ 熊取町つばき紺屋（アダンテ）3 回
- ☆ 岸和田市天神山小（サルビア）
- ☆ 泉佐野市佐野台小（サルビア）
- ☆ 岸和田市自泉会館（サルビア）
- ☆ 泉佐野市長坂小（サルビア）
- ☆ 泉佐野市優人会（茶道クラブ）
- ☆ 岸和田市八木小（サルビア）
- ☆ 岸和田市旭小（サルビア）
- ☆ 岸和田市太田小（サルビア）
- ☆ 岸和田市八木南小（サルビア）
- ☆ 岸和田市東光小（サルビア）
- ☆ 岸和田女性センター（サルビア）
- ☆ 泉佐野市ティ・ビー・スつばき（アンダンテ）
- ☆ 泉佐野ヨッパースモール（アンダンテ）

《山手地区公民館所属》

- ☆ 和泉市介護施設プリムラ（沖縄三線あかばな）

津田校区 3 回

《中央公民館所属》

- ☆ 自立支援センターどんまい（遊び隊）
- ☆ 津田小学校（遊び隊）

《山手地区公民館所属》

- ☆ 津田南町会（ことぶきクラブ）

二色校区 10 回

《中央公民館所属》

- ☆ コスタミラ（フラ）
- ☆ 二色小学校（遊び隊）
- ☆ リレーフォーライフ（あひる）
- ☆ 浜手地区公民館（あひる）
- ☆ 浜手地区公民館（遊び隊）

《浜手地区公民館所属》

- ☆ 浜手地区公民館（民踊・舞踊）2 回
* パークタウン盆踊りの指導
- ☆ 第 5 中学校（民踊・舞踊）
- ☆ 浜手公民館園児体験（茶道クラブ）
- ☆ コスタミラ（アンダンテ）

西校区 12 回

《中央公民館所属》

- ☆ 二色の浜公園（遊び隊）2 回
- ☆ 西小学校（遊び隊）2 回
- ☆ ふれあい二色ホーム（ハーモニカ）
- ☆ 西幼稚園（遊び隊）
- ☆ いぶき作業所（女声合唱プリズム）
- ☆ 澤町会館（オカリナ）
- ☆ 西小学校（あひる）
- ☆ 二色東和苑（遊び隊）

《浜手地区公民館所属》

- ☆ 二色の浜公園（アンダンテ）
- ☆ 西小学校学童（きしゃぽっぽ）

東校区 6 回

《中央公民館所属》

- ☆ 東町会館（遊び隊）
- ☆ 白ゆりデイサービス
- ☆ 東小学校（遊び隊）

《浜手地区公民館所属》

- ☆ 堀住宅老人会館（

北校区 1 回

《中央公民館所属》

- ☆ 公民館まつり・貝塚駅前
- ☆ 北小学校（遊び隊）
- ☆ こどもフェスティバル
- ☆ ティー・ビー・貝塚駅前
- ☆ 保健センター（あひる）
- ☆ 青少年センター（あひる）
- ☆ 貝塚市介護者家族会

《浜手地区公民館所属》

- ☆ 中央公民館まつり
- ☆ 第 1 中学校（アンダンテ）

中央校区

《中央公民館所属》

- ☆ 麻生中みつ葉クラブ
- ☆ 半田町会館（マジック）
- ☆ 桜塚集会所（フラ）
- ☆ 麻生中町会館（遊び隊）
- ☆ 麻生中町会館（あひる）
- ☆ 桜塚住宅（レモン）

《山手地区公民館所属》

- ☆ 石才町会（沖縄三線）
- ☆ 鳥羽町会（沖縄三線）

がんばってるよ

(冊子「2013年度貝塚公民館のあゆみ」より抜粋・編集)

回、オカリナふぁみりあ 4 回、リサイクル工房リボン・レモンクラブ・絵手紙クラブ・女声合唱団プリズム各 1 回
2 回、人形劇きしゃぼっぽ 2 回、キラウエア 1 回

、よさこい舞人 2 回、琴和会 2 回、ふれあい料理ボランティア・童謡をうたおう・大正琴・尺八・マジック各 1 回

区 6 回

属》
び隊)
ービス(フラ) 2 回
び隊) 2 回

館所属》
館(アンダンテ)

区 10 回

属》
・貝っ子フェスタ(遊び隊)
び隊)
スティバル(遊び隊)
駅前(オカリナ) 2 回
(あひる)
ー(あひる)
者家族の会(遊び隊)
館所属》
まつり(アンダンテ)
(アンダンテ)

校区 8 回

属》
力カフェ(遊び隊)
(マジック)
(フラ)
館(遊び隊)
館(あひる)
ンモンクラブ)

館所属》
中縄三線あかばな)
中縄三線あかばな)

東山校区 6 回

《中央公民館所属》
☆ 東山自治会館(ハーモニカ)
☆ 三ヶ山学園りぶりー(遊び隊)

《浜手地区公民館所属》
☆ 三ヶ山学園りぶりー(アダンテ) 2 回
☆ 東山小学童(きしゃぼっぽ)

《山手地区公民館所属》
☆ 東山町会(貝塚笑助隊)

木島校区 13 回

《中央公民館所属》
☆ 河崎病院(ハーモニカ) 4 回
☆ 木島小学校(あひる)
☆ 木島病院(ハーモニカ)
☆ 貝塚誠心園(オカリナ)
☆ 貝塚誠心園(絵手紙クラブ)
☆ 木島西幼稚園(遊び隊)

《浜手地区公民館所属》
☆ 清名台老人会館(アンダンテ)
☆ 貝塚誠心園(アンダンテ)
☆ 中央公民館講座(アンダンテ)

《山手地区公民館所属》
☆ 清名台老人会館(ことぶきクラブ)

南校区 8 回

《中央公民館所属》
☆ イオンソッピ・ソグ・センター(マジック)
☆ 橋本中央団地(マジック)
☆ 子ども野外広場(遊び隊) 2 回
☆ 南小学校(遊び隊)
☆ プレイパーク(遊び隊) 2 回

《浜手地区公民館所属》
☆ 南小学校(アンダンテ)

葛城校区 7 回

《中央公民館所属》
☆ ほの字の里(ハーモニカ)
☆ 馬場町会館(マジック)
☆ 葛城幼稚園(遊び隊)

《浜手地区公民館所属》
☆ 馬場町会館(アンダンテ)

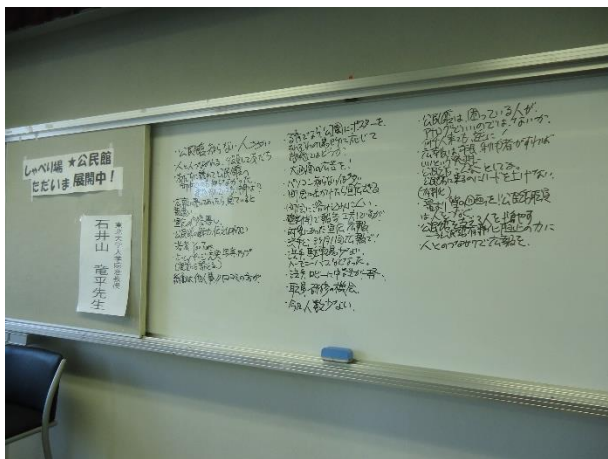
《山手地区公民館所属》
☆ 葛城小学童(オルオルウクレレ)
☆ 馬場町会館(貝塚笑助隊)
☆ 馬場町会館(大正琴)

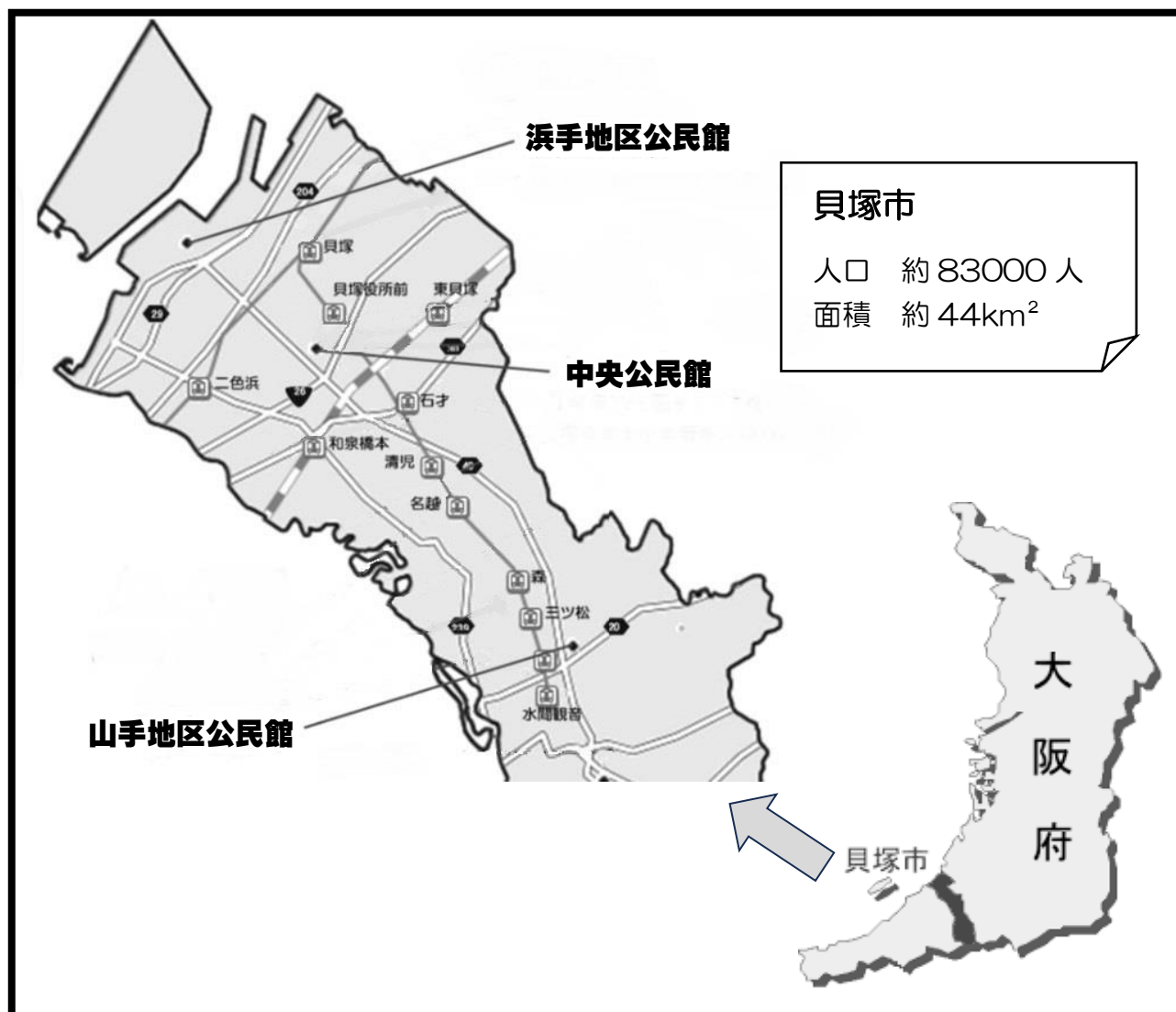
永寿校区 36 回

《中央公民館所属》
☆ ほっこりの里(遊び隊) 5 回
☆ 永寿小学校(遊び隊) 2 回
☆ 永寿小学校ふれあいルーム(遊び隊)
☆ 永寿小仲良しホーム(遊び隊)

《浜手地区公民館所属》
☆ ミッ松団地南自治会(アンダンテ)
☆ ミッ松団地南自治会(キラウエア)

《山手地区公民館所属》
☆ ミッ松団地第 2 住宅
(ことぶきクラブ)
☆ ミッ松団地南自治会
(ことぶきクラブ) 11 回
(沖縄三線あかばな)(琴和会)
(よさこい舞人) 以上 2 回
(童謡をうたおう)(尺八)
(マジック) 各 1 回
☆ ほっこりの里
(オルオルウクレレ)
(津軽三味線)
(ふれあい料理ボランティア)
☆ ミッ松西ノ内町(津軽三味線)





「しゃべり場★公民館」の目的

公民館が公民館でありつつけるために、

何ができるかをみんなで考える場

＊みんなとは利用者・利用していない人・職員のこと

みんなでしゃべった！学んだ！つながった！！

— しゃべり場★公民館 10年間の記録 —

発行 令和5年8月1日

編集 「しゃべり場★公民館」運営メンバー

【利用者】秋本道代・朝日陽子・麻生川美紀・石原隆則・木村恵美子・土井良子
中野伸和・馬場則彦・南河真由美・藪田昭

【職員】市政希・奥埜由起子・要光志朗・小山智子・山田知子

発行者 貝塚市立中央公民館

(〒597-0072) 大阪府貝塚市畠中1丁目18-1

Tel.072-433-7222 (水・祝休館)